

平成 2 8 年度

宮城県学力・学習状況調査

# 実施結果報告書

平成 2 8 年 9 月

宮城県教育委員会

## はじめに

平成28年度の宮城県学力・学習状況調査を4月26日に実施しました。

本調査の目的は、宮城県の児童生徒の学力や学習状況及び学校の学習に係る取組、意識等を調査することにより、児童生徒の一層の学力向上に向け、学習指導の改善と家庭学習の充実を図るとともに、本調査の結果と全国学力・学習状況調査の結果を関連付けて分析し、学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を図ることにあります。

今年度の学力調査の結果によると、小5の国語について「全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」の全ての区分で期待値を5ポイント下回り、課題が見られます。その他の教科については、「全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」で期待値とのかい離は5ポイント以内であり、期待値と同程度となりました。領域別については、特に小5の国語の「書くこと」が昨年度に続いて期待値を大きく下回り、また、中2の国語の「書くこと」も期待値を5ポイント以上下回っていることから、全体的に国語の「書くこと」に課題があると捉えております。また、小5の国語の「読むこと」、中2の数学の「関数」も期待値を5ポイント以上下回っていることから課題があると捉えております。

学習状況調査の結果からは、震災の影響として「授業に集中できない」、「気持ちが落ち着かなくなる」と回答している児童生徒が、小5で約2割、中2で約1割存在していることが分かりました。本調査を開始してから3年、この回答の割合がほとんど変わっていないことを重く受け止め、今後も児童生徒の震災の影響を細やかに把握する取組を続けながら、児童生徒の心のケアに努め、落ち着いて学習できる環境の整備を一層進めていく必要があると捉えております。

県教育委員会では、宮城県検証改善委員会を設置し、分析結果を基に対策等について協議・検討を重ねてまいりました。今回の報告書では、これまでの「検証改善委員会報告書」、「サポートプログラム事業報告書」などで示してきた授業改善のポイントを踏まえながら、「学力向上に向けた5つの提言」や「算数・数学ステップ・アップ5」を視点とした授業づくりのポイントを各教科ごとに示しております。各学校で本報告書を積極的に活用していただき、全ての教室で「学力向上に向けた5つの提言」と「算数・数学ステップ・アップ5」の実践化が、一層推進されることが重要であると考えております。

本報告書では、今年度の調査結果とともに、これまでの3年間の調査結果も併せて集約しています。各学校のみならず家庭や地域においても積極的に活用され、学校、家庭、地域が一体となって一層の学力向上への取組が進むよう期待しております。

平成28年9月

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

# 平成28年度 宮城県学力・学習状況調査

## 調査結果報告書

### <目次>

はじめに

#### 1 実施状況

(1) 調査の目的	1
(2) 調査実施期日	1
(3) 調査対象等	1

#### 2 調査結果

(1) 教科に関する調査結果	2
(2) 小学校（第5学年）国語の調査結果	3
(3) 小学校（第5学年）算数の調査結果	6
(4) 中学校（第2学年）国語の調査結果	9
(5) 中学校（第2学年）数学の調査結果	12
(6) 中学校（第2学年）英語の調査結果	15

#### 3 魅力ある授業づくりのポイント

(1) 国語の授業づくりのポイント	18
(2) 算数・数学の授業づくりのポイント	20
(3) 英語の授業づくりのポイント	22

#### 4 質問紙調査結果の概況

(1) 児童生徒質問紙調査の結果	
① 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項	24
② 震災の影響と関連する事項	27
③ 学習の理解度と関連する事項	28
④ 基本的な生活習慣と関連する事項	29
⑤ 自尊意識・規範意識と関連する事項	31
(2) 学校質問紙調査の結果	
① 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項	33
② 震災の影響と関連する事項	33
③ 指導方法と関連する事項	34
④ 学力向上に向けた取組と関連する事項	34

#### 5 質問紙調査結果の3年間の概況

(1) 児童生徒質問紙	35
(2) 学校質問紙	36

#### 6 児童生徒質問紙調査結果と学校質問紙調査結果のかい離

#### 7 今後の対応

#### 《資料》

資料1 「学力向上に向けた5つの提言」	40
資料2 「算数・数学ステップ・アップ5」事例集	41

## 平成28年度宮城県学力・学習状況調査結果について

宮城県教育委員会

### 1 実施状況

#### (1) 調査の目的

- ① 宮城県の児童生徒の学力や学習状況及び学校の学習に係る取組、意識等を調査することにより、児童生徒の一層の学力向上に向け、学習指導の改善と家庭学習の充実を図るとともに、今後の教育施策の企画・立案に活用する。
- ② 本調査の結果と全国学力・学習状況調査の結果を関連付けて分析することにより、学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を図る。

#### (2) 調査実施期日

平成28年4月26日（火）

#### (3) 調査対象等（仙台市を除く）

対象（*1）	調査事項		実施校	実施児童生徒数
	教科（*2）	質問紙		
小学校5年生の 全児童	国語 算数	生活習慣 学習環境	262校	10,298人
中学校2年生の 全生徒	国語 数学 英語		142校	11,097人
学校		児童生徒への関わり方 指導方法 等	上記の全小・中学校	

\*1 特別支援学校を含む。

\*2 教科に関する調査問題の構成

約8割：基礎・基本に関する問題

約2割：思考力・判断力・表現力に関する問題

## 2 調査結果

### (1) 教科に関する調査結果

- 「全体」、「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」の平均正答率は、小5の国語を除いた教科で「期待値」\*<sup>3</sup>とのかい離が5ポイントの範囲内であり有意差は見られなかった\*<sup>4</sup>ものの、多くの項目で期待値を下回っている。
- 中2の国語の「思考力・判断力・表現力」の平均正答率は、期待値を上回り、かい離も前年度のマイナスからプラスに転じている。
- 中2の英語の「全体」、「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」の平均正答率は期待値を下回っているが、前年度と比べてかい離は小さくなっている。

<表1> 学年・教科ごとの宮城県平均正答率（全体、基礎・基本、思考力・判断力・表現力）

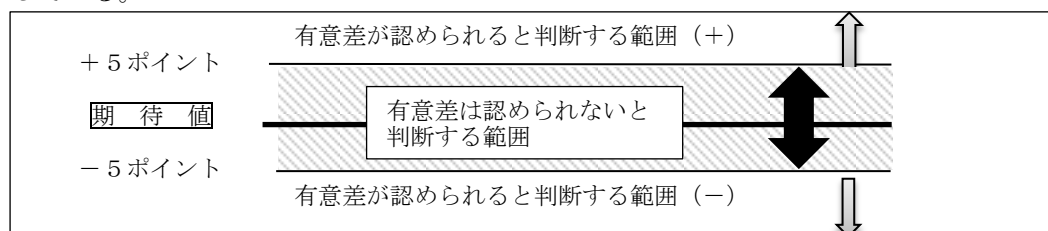
校種	教科	年度	全体			基礎・基本			思考力・判断力・表現力		
			県平均正答率	期待値	期待値との比較* <sup>5</sup>	県平均正答率	期待値	期待値との比較	県平均正答率	期待値	期待値との比較
小学校	国語	H28	62.6	69.6	-7.0	64.5	71.3	-6.8	51.1	59.0	-7.9
		H27	62.0	66.7	-4.7	64.8	69.5	-4.7	46.0	50.2	-4.2
		H26	63.8	67.7	-3.9	67.9	72.0	-4.1	46.0	48.8	-2.8
	算数	H28	64.7	65.8	-1.1	67.3	68.4	-1.1	57.4	58.6	-1.2
		H27	71.3	70.5	0.8	73.3	73.0	0.3	61.8	59.0	2.8
		H26	74.4	74.0	0.4	76.2	76.4	-0.2	67.5	64.7	2.8
中学校	国語	H28	67.7	69.6	-1.9	69.3	71.7	-2.4	60.1	60.0	0.1
		H27	62.9	64.9	-2.0	66.8	68.3	-1.5	45.6	49.7	-4.1
		H26	65.3	67.6	-2.3	67.4	69.7	-2.3	53.7	55.4	-1.7
	数学	H28	58.4	61.2	-2.8	62.0	65.2	-3.2	42.6	44.0	-1.4
		H27	61.8	63.0	-1.2	63.3	64.9	-1.6	56.2	56.0	0.2
		H26	58.9	63.2	-4.3	61.5	66.0	-4.5	49.7	53.1	-3.4
	英語	H28	67.3	68.1	-0.8	72.2	72.5	-0.3	52.2	54.1	-1.9
		H27	65.6	68.3	-2.7	71.2	73.5	-2.3	47.5	51.1	-3.6
		H26	69.3	70.7	-1.4	73.8	75.3	-1.5	53.9	55.3	-1.4

\* 3 「期待値」について

全国的な水準で期待すべき想定平均正答率を県が設定した参考値である。

\* 4 「有意差は見られなかった」について

期待値は想定した平均正答率であり、±5ポイントを誤差と捉え、下図のような考え方を設定している。



\* 5 「期待値との比較」について

県平均正答率と期待値とのかい離を表した値である。

(2) 小学校（第5学年）国語の調査結果

① 平成28年度調査結果

- ・「教科全体」，「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに，期待値を5ポイント以上下回るとともに，期待値とのかい離も前年度よりも大きくなっている。
- ・「話すこと・聞くこと」については，期待値を下回ったもののかい離は5ポイントの範囲内であり，有意差は見られない。期待値とのかい離は前年度よりも小さくなっている。
- ・「書くこと」については，期待値を5ポイント以上下回り，4領域の中で期待値とのかい離が最も大きくなっている。
- ・「読むこと」については，期待値を5ポイント以上下回り，期待値とのかい離も前年度よりも大きくなっている。

<表2> 領域別平均正答率

分類	区分	年度	県平均 正答率	期待値	期待値との 比較
全体 ・ 基礎 ・ 活用	教科全体	H28	62.6	69.6	-7.0
		H27	62.0	66.7	-4.7
		H26	63.8	67.7	-3.9
	基礎・基本	H28	64.5	71.3	-6.8
		H27	64.8	69.5	-4.7
		H26	67.9	72.0	-4.1
	思考力・判断力・表現力	H28	51.1	59.0	-7.9
		H27	46.0	50.2	-4.2
		H26	46.0	48.8	-2.8
領域	話すこと・聞くこと	H28	64.7	65.6	-0.9
		H27	70.5	71.6	-1.1
		H26	68.6	61.3	7.3
	書くこと	H28	56.7	70.4	-13.7
		H27	54.8	69.8	-15.0
		H26	59.9	67.5	-7.6
	読むこと	H28	58.5	68.7	-10.2
		H27	55.9	59.3	-3.4
		H26	61.2	66.0	-4.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	H28	68.1	70.8	-2.7
		H27	68.6	69.2	-0.6
		H26	66.9	71.2	-4.3

【小問別の問題内容と正答率(小学校 国語)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県平均正答率	期待値	無解答率				
					話	書	読												
1		(1)		選択	◎				話すこと・聞くこと	話し合いの内容を聞き取る	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	3・4年A(1)エ	74.8	78.2	0.2				
2	1	(2)	選択	◎												78.0	76.9	0.7	
3		(3)		記述	◎	○		表						互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合おうとすることができる。	3・4年A(1)エ・オ	41.4	41.8	6.1	
4			①	短答			◎		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	漢字を読む	第4学年配当漢字を読むことができる。	3・4年伝国(1)ウ(イ)	81.8	86.3	8.5				
5		(1)	②	短答			◎									97.9	97.8	1.1	
6	2		③	短答			◎									93.7	95.0	2.1	
7		(1)	①	短答			◎							漢字を書く	第3学年配当漢字を書くことができる。		71.9	74.5	6.7
8		(2)	②	短答			◎								第4学年配当漢字を書くことができる。		△ 78.5	70.2	5.9
9			③	短答			◎										▼ 73.6	82.1	14.1
10		(1)	①	選択			◎						伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	言葉の学習	文の構成(連体修飾語)について理解している。	3・4年伝国(1)イ(キ)	88.7	87.0	0.3
11		(1)	②	選択			◎								文の構成(連用修飾語)について理解している。			69.7	71.9
12	3	(2)		選択			◎									ローマ字を理解している。	3・4年伝国(1)ウ(ア)	53.6	53.8
13		(3)	①	短答			◎			文の定義を理解している。	1・2年伝国(1)イ(カ)	▼ 27.0			36.5	27.3			
14		(3)	②	短答		○	◎			文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができる。	3・4年伝国(1)イ(ク)	▼ 13.1			23.4	15.6			
15	4	ア		短答		◎			書くこと	資料から読み取ったことを書く	目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くことができる。	3・4年B(1)ウ	▼ 52.0	72.4	23.8				
16		イ		記述		◎									48.0	44.9	21.1		
17		(1)		選択			◎		読むこと	物語の内容を読み取る	場面の情景を読み取ることができる。	3・4年C(1)ウ	▼ 70.3	78.0	1.3				
18	5	(2)		選択			◎						登場人物の気持ちを読み取ることができる。		▼ 54.1	64.3	1.4		
19		(3)		選択			◎						登場人物の気持ちと場面の情景を読み取り、まとめることができる。		▼ 42.2	52.3	4.0		
20		(1)		選択			◎		読むこと	説明文の内容を読み取る	文章の要点に注意して読み取ることができる。	3・4年C(1)イ	▼ 61.5	74.1	3.1				
21	6	(2)		選択			◎						文章の要点に注意して、全文の内容を要約することができる。		▼ 76.4	86.7	3.5		
22		(3)		選択			◎	思							66.1	70.5	4.6		
23		(1)		選択			◎	思	読むこと	ポスターと話し合いを読み取る	与えられた情報を読み取り、ポスターの内容に適した絵を選ぶことができる。	3・4年C(1)イ	▼ 59.6	68.7	5.5				
24	7	(2)		記述		○	◎	表					与えられた情報を読み取り、ポスターに補足する文章を書くことができる。		▼ 37.5	54.9	21.6		
25				記述		◎			書くこと	作文	指定された長さで文章を書くことができる。	3・4年B(1)ア	▼ 47.0	70.0	22.4				
26	8			記述		◎	○						二段落構成で文章を書くことができる。	3・4年B(1)イ	▼ 51.8	63.0	22.4		
27				記述		◎						自分の意見とその理由を区別して書くことができる。	3・4年B(1)ウ	▼ 73.2	87.6	22.4			
28				記述		◎									▼ 68.0	84.6	22.4		

※「県平均正答率」の欄における、△は、期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの、▼は、期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。  
 ※「通し番号」及び「出題のねらい」の欄における、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題。  
 ※「学習指導要領」の欄における、「伝国」は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の略記。

② 平成26～28年度の調査結果の経年比較から

ア 「正答率度数分布」について

- ・中間層がやや減少し、上位層と下位層が増加している。
- ・分布の範囲は、やや大きくなっている。

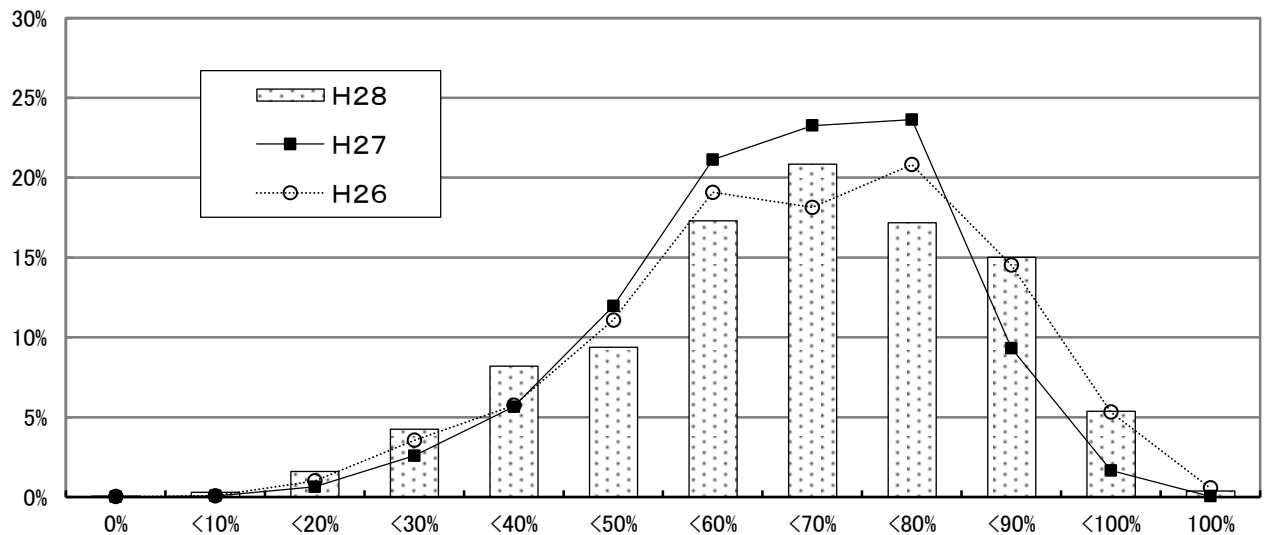
イ 「教科全体」, 「基礎・基本」, 「思考力・判断力・表現力」について

- ・「教科全体」, 「基礎・基本」, 「思考力・判断力・表現力」の期待値とのかい離は、年々大きくなっており、平成28年度では、5ポイントの範囲を超え、有意差が見られる。

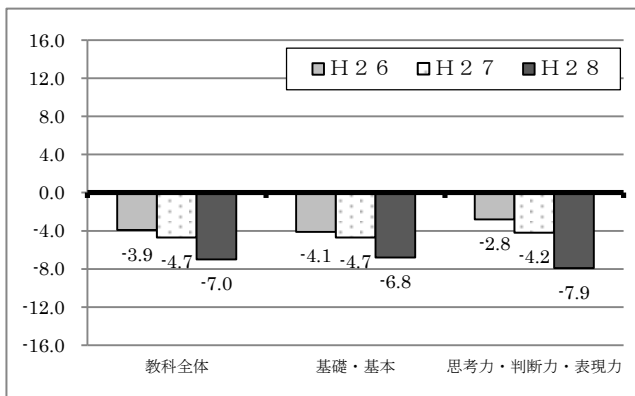
ウ 「領域ごとの比較」について

- ・「話すこと・聞くこと」の平成27年度と28年度、また「言語文化等に関する事項」の3年間は期待値を下回ったが、期待値とのかい離が5ポイントの範囲内であり、有意差は見られない。
- ・「書くこと」については、平成27年度と28年度ともに期待値とのかい離が10ポイント以上ではあるが、平成28年度においては前年度よりわずかにかい離が小さくなっている。
- ・「読むこと」は、平成26年度と27年度においては、期待値とのかい離で有意差は見られなかったが、28年度にはかい離が大きくなり、有意差が見られる。

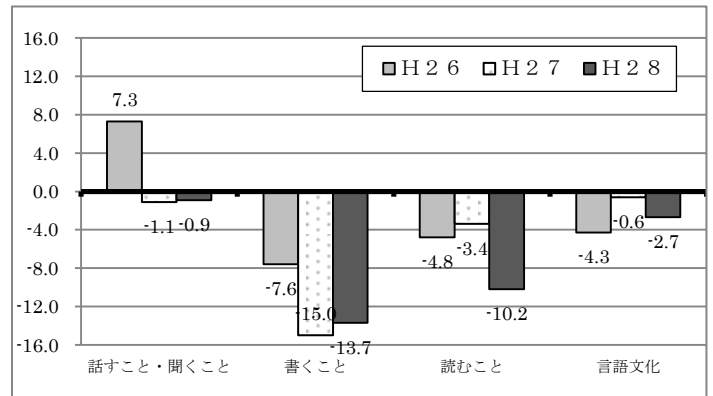
<正答率度数分布>



<全体・基礎・活用の比較> \* 7



<領域ごとの比較> \* 7



\* 7 グラフの数値は、「期待値との比較」の値。



### (3) 小学校（第5学年）算数の調査結果

#### ① 平成28年度調査結果

- ・「教科全体」，「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」については，期待値を下回り，かい離は前年度よりも大きくなっているが，5ポイントの範囲内であり，有意差は見られない。
- ・「量と測定」は，昨年度に引き続き期待値を上回るとともに，かい離も前年度よりプラスで大きくなっている。
- ・「数と計算」，「図形」及び「数量関係」については，期待値を下回ったものの5ポイントの範囲内であり，有意差は見られない。

＜表3＞ 領域別平均正答率

分類	区分	年度	県平均 正答率	期待値	期待値との 比較
全体 ・ 基礎 ・ 活用	教科全体	H28	64.7	65.8	-1.1
		H27	71.3	70.5	0.8
		H26	74.4	74.0	0.4
	基礎・基本	H28	67.3	68.4	-1.1
		H27	73.3	73.0	0.3
		H26	76.2	76.4	-0.2
	思考力・判断力・表現力	H28	57.4	58.6	-1.2
		H27	61.8	59.0	2.8
		H26	67.5	64.7	2.8
領域	数と計算	H28	70.0	72.3	-2.3
		H27	78.9	78.2	0.7
		H26	78.4	78.4	0.0
	量と測定	H28	73.7	70.3	3.4
		H27	77.1	76.8	0.3
		H26	74.9	79.1	-4.2
	図形	H28	50.5	51.8	-1.3
		H27	65.1	65.7	-0.6
		H26	75.8	73.9	1.9
	数量関係	H28	55.2	55.9	-0.7
		H27	59.2	57.5	1.7
		H26	67.9	65.4	2.5

【小問別の問題内容と正答率(小学校 算数)】

通し番号	大問番号	中間番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県平均正答率	期待値	無解答率
					考	技	知								
1		(1)		短答	◎				数と計算	わり算	3けた÷1けた=3けた(余りなし、商に空位あり)の計算ができる。	4年A(3)イ	70.7	68.6	1.3
2		(2)	短答	◎				3けた÷1けた=2けた(余りあり)の計算ができる。			80.2		82.9	2.5	
3		(3)	短答	◎				3けた÷2けた=2けた(余りあり)の計算ができる。			69.0		71.3	4.6	
4	1	(4)	短答	◎						小数第一位×整数の計算ができる。	4年A(5)ウ	80.4	83.0	1.2	
5		(5)	短答	◎						整数-小数第二位の計算ができる。	4年A(5)イ	△ 65.2	57.8	2.9	
6		(6)	短答	◎						小数第二位÷整数=小数第二位(商が純小数)の計算ができる。	4年A(5)ウ	▼ 57.4	62.7	8.9	
7		(7)	短答	◎						帯分数-真分数=真分数(繰り下がりあり)の同分母分数の計算ができる。	4年A(6)イ	76.3	77.5	3.8	
8	2	(1)	選択	○◎				数と計算	億と兆	命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。	4年A(1)ア	81.6	83.3	0.3	
9		(2)	選択	○◎								大きな数の相対的な大きさを理解している。	▼ 55.8	63.4	0.4
10	3	(1)	選択	○◎			数と計算	小数		小数のしくみを理解している。	4年A(5)ア	83.3	85.9	0.3	
11		(2)	選択	○◎									小数の相対的な大きさを理解している。	76.4	78.1
12	4		短答	◎○			数と計算	小数	文章問題を解くための整数÷整数=小数第一位の除法の立式ができる。	4年A(5)ウ	▼ 48.1	59.1	9.9		
13	5		選択	○◎			数と計算	分数	数直線上に示された分数を読み取ることができる。	4年A(6)	△ 82.8	76.9	0.8		
14	6		選択	○◎	思		数と計算	分数	帯分数、仮分数、真分数、整数を大小順に並べることができる。	4年A(6)	▼ 56.5	63.6	1.0		
15	7	(1)	選択		◎		数と計算	がい数の表し方		上から2けたの概数の表し方を理解している。	4年A(2)イ	74.7	78.8	1.0	
16		(2)	短答	○◎									示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している。	4年A(2)イ	64.0
17	8	(1)	選択	◎	○	思	数と計算	わり算		倍とわり算の文章問題を表した図を理解している。	4年A(3)イ	▼ 66.7	72.1	2.3	
18		(2)	選択	◎○									図を使って、倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶことができる。	71.2	75.6
19	9	(1)	選択	○◎			量と測定	角の大きさ		分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取ることができる。	4年B(2)ア、イ	86.9	87.2	0.8	
20		(2)	選択	◎	○	思							角の大きさの見当をつけることができる。	60.1	60.2
21	10		短答	◎○			量と測定	面積	正方形の面積を求めることができる。	4年B(1)イ	△ 76.4	65.4	2.3		
22	11		選択	◎		思	量と測定	面積	複合図形で、面積を求める図から式がわかる。	4年B(1)イ	71.4	68.4	2.1		
23	12		短答	◎○			図形	いろいろな形	平行四辺形の作図ができる。	4年C(1)イ	▼ 50.1	57.0	4.1		
24	13		記述	○◎	表		図形	いろいろな形	辺の長さの特徴によってグループ分けした四角形の分け方を説明できる。	4年C(1)イ	38.0	36.8	15.9		
25	14	(1)	選択	◎	○		図形	いろいろな形		立方体の展開図から平行な面がわかる。	4年C(2)ア、イ	87.0	85.9	2.4	
26		(2)	選択	◎									方眼を使って、垂直な直線を見つけることができる。	4年C(1)ア	27.0
27	15	(1)	選択	◎○			数量関係	計算のきまり・変わり方調べ		四則混合の式の計算順序を理解している。	4年D(2)ア	57.5	56.3	6.3	
28		(2)	選択	◎○									分配法則を理解している。	4年D(3)ア	36.1
29	16		選択	◎○			数量関係	計算のきまり・変わり方調べ	計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選ぶことができる。	4年D(2)ア	73.1	74.2	5.6		
30	17		短答	◎	○		数量関係	計算のきまり・変わり方調べ	伴って変わる二つの数量の関係を式に表すことができる。	4年D(2)ウ	50.7	55.2	15.2		
31	18		記述	◎	○	表	数量関係	折れ線グラフと表	二次元表の読み方を理解している。	4年D(4)ア	70.3	71.3	12.0		
32	(1)	選択		◎	思	数量関係	折れ線グラフと表		折れ線グラフを正しく読み取ることができる。	4年D(4)イ	53.7	50.6	8.7		
33	(2)	短答	◎	○	思							折れ線グラフを読み取り、問題を解くことができる。	▼ 57.2	62.5	12.0
34	(3)	短答	◎	○	思							2つの折れ線グラフを読み取り、問題を解くことができる。	43.0	41.6	13.3

※「県平均正答率」の欄における、△は、期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は、期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。  
 ※「通し番号」及び「出題のねらい」の欄における、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題。

② 平成26～28年度の調査結果の経年比較から

ア 「正答率度数分布」について

- ・年度ごとに上位層が少しずつ減少し，下位層が増加する傾向にある。
- ・分布の範囲は，やや大きくなってきている。

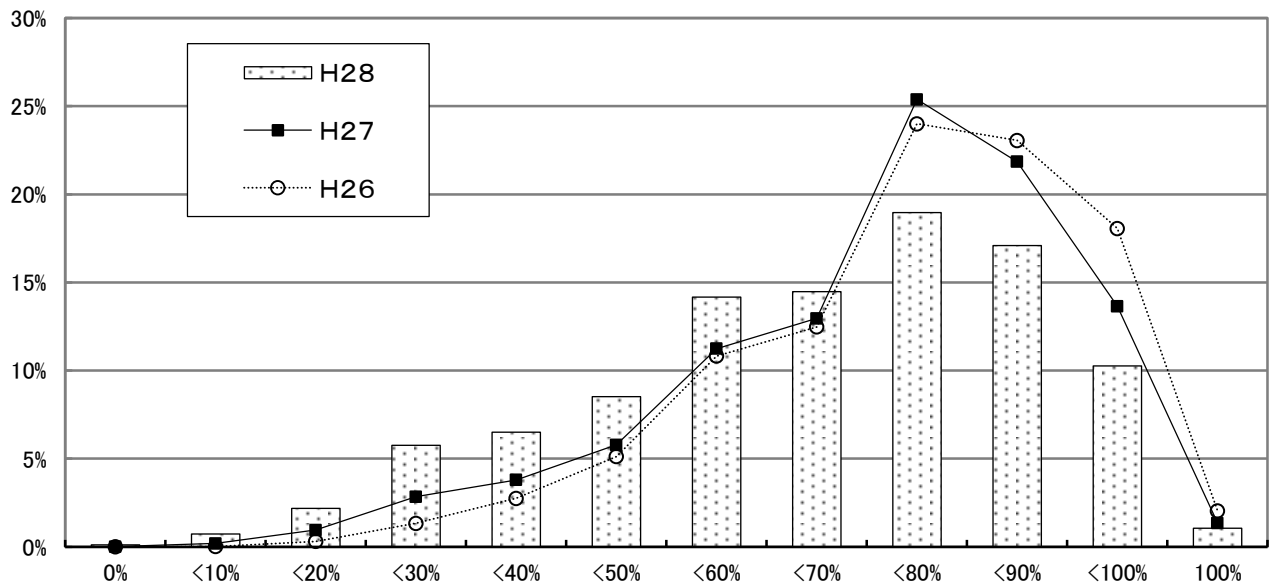
イ 「教科全体」，「基礎・基本」，「思考力・判断力・表現力」について

- ・「教科全体」，「基礎・基本」，「思考力・判断力・表現力」の期待値とのかい離は，3年間全て5ポイントの範囲内であり，有意差は見られない。

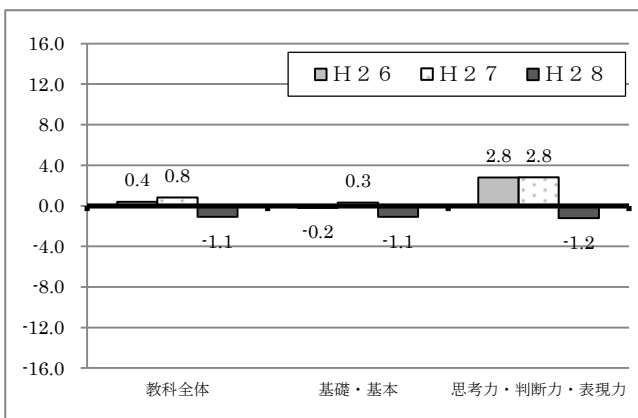
ウ 「領域ごとの比較」について

- ・「図形」，「数量関係」は，期待値とのかい離がプラスから年度ごとに徐々に下がり，マイナスに転じているが，3年間とも5ポイントの範囲内であり，有意差は見られない。
- ・「数と計算」も3年間でプラスからマイナスに転じているが，5ポイントの範囲内であり，有意差は見られない。
- ・「量と測定」については，期待値とのかい離が3年間でマイナスからプラスに転じている。

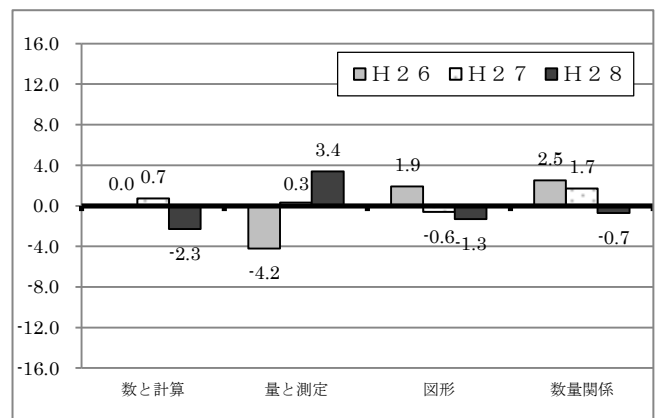
<正答率度数分布>



<全体・基礎・活用の経年比較>



<領域ごとの経年比較>



(4) 中学校(第2学年)国語の調査結果

① 平成28年度調査結果

- ・「教科全体」, 「基礎・基本」は, 期待値を下回ったものの, かい離は5ポイントの範囲内であり, 有意差は見られない。また, 「教科全体」と「思考力・判断力・表現力」は前年度よりも期待値とのかい離が小さくなり, 「思考力・判断力・表現力」についてはマイナスからプラスに転じている。
- ・「話すこと・聞くこと」は, 期待値を上回り, かい離がマイナスからプラスに転じている。
- ・「書くこと」は, 期待値を5ポイント以上下回り, かい離がプラスからマイナスに転じている。
- ・「読むこと」は, 期待値をわずかに下回ったものの, かい離は小さくなっている。
- ・「言語文化等に関する事項」は, 期待値を下回ったものの有意差はなく, かい離は小さくなっている。

<表4> 領域別平均正答率

分類	区分	年度	県平均 正答率	期待値	期待値との 比較
全体 ・ 基礎 ・ 活用	教科全体	H28	67.7	69.6	-1.9
		H27	62.9	64.9	-2.0
		H26	65.3	67.6	-2.3
	基礎・基本	H28	69.3	71.7	-2.4
		H27	66.8	68.3	-1.5
		H26	67.4	69.7	-2.3
	思考力・判断力・表現力	H28	60.1	60.0	0.1
		H27	45.6	49.7	-4.1
		H26	53.7	55.4	-1.7
領域	話すこと・聞くこと	H28	74.0	73.5	0.5
		H27	76.0	80.1	-4.1
		H26	75.3	77.4	-2.1
	書くこと	H28	77.1	82.8	-5.7
		H27	73.2	62.6	10.6
		H26	67.0	75.8	-8.8
	読むこと	H28	59.8	60.0	-0.2
		H27	55.1	59.5	-4.4
		H26	59.9	62.5	-2.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	H28	68.3	71.2	-2.9
		H27	60.4	64.4	-4.0
		H26	65.5	64.7	0.8

【小問別の問題内容と正答率(中学校 国語)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県平均正答率	期待値	無解答率	
					話	書	読									
1		(1)		選択	◎				話すこと・聞くこと	話し合いの内容を聞き取る	話の内容を正確に聞き取ることができる。 聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。	1年A(1)エ	90.4	88.6	0.4	
2		(2)		選択	◎			56.7					54.7	0.8		
3		(3)		選択	◎			79.1					79.1	0.6		
4		(1)		選択	◎			話すこと・聞くこと	話し合いの司会の役割をとらえる	話し合いの方向をとらえて司会の役割を果たすことができる。	1年A(1)オ	87.7	90.5	0.5		
5		(2)		短答	◎							56.1	54.7	0.5		
6		(1)	①	短答			◎	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	漢字を読む	第1学年までに学習した漢字を読むことができる。	1年伝国(1)ウ(ア)	89.6	92.5	3.2		
7	②		短答			◎	97.7					97.8	1.0			
8	③		短答			◎	90.9					94.8	2.1			
9	④		短答			◎	96.9					95.1	1.6			
10		(2)	①	短答			◎	漢字を書く	小学校で学習した漢字を書くことができる。	1年伝国(1)ウ(イ)	57.8	60.3	21.4			
11	②		短答			◎	▼ 50.9				59.7	16.0				
12	③		短答			◎	80.8				85.5	16.1				
13	④		短答			◎	49.9				46.8	23.6				
14		(1)		短答			◎	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文法・語句に関する知識	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。 単語について理解している。 漢字の音を区別して読むことができる。 故事成語について理解している。	1年伝国(1)ア(ア)	▼ 34.2	52.2	17.5		
15	(2)		短答			◎	1年伝国(1)イ(エ)					59.1	56.9	1.3		
16	(3)		選択			◎	1年伝国(1)ウ(ア)					△ 50.8	41.4	0.9		
17	(4)		選択			◎	1年伝国(1)イ(イ)					▼ 61.1	71.7	1.1		
18		(1)		選択			◎	読むこと	説明文の内容を読み取る	文章の展開に即して内容をとらえることができる。 文章の構成や展開を正確にとらえ、要約することができる。 文章の展開に即して内容をとらえることができる。 文章の展開に即して要旨をとらえることができる。	1年C(1)イ	50.9	52.4	1.1		
19	(2)		記述		○	◎	表					51.9	51.0	18.1		
20	(3)		選択			◎	思					46.1	42.8	1.3		
21	(4)		選択			◎						61.2	58.8	1.7		
22		(1)		選択			◎	読むこと	文学作品の内容を読み取る	登場人物の様子をとらえることができる。 登場人物の心情をとらえることができる。 登場人物の心情の変化をとらえることができる。	1年C(1)ウ	49.4	48.3	1.2		
23	(2)		選択			◎						67.8	68.3	1.3		
24	(3)		選択			◎	思					55.5	60.4	1.8		
25	(4)		選択			◎						67.7	72.3	2.3		
26		(1)		選択			◎	読むこと	メモと発表原稿の内容を読み比べる	メモと発表原稿を正しく読み取り、情報を整理することができる。 メモと発表原稿を正しく読み取り、発表原稿の文脈と目的から適切な言葉を書くことができる。 メモと発表原稿を正しく読み取り、追加する文章を入れる適切な位置を見つけることができる。	1年C(1)エ	74.7	75.9	2.0		
27	(2)		記述		○	◎	表					1年C(1)イ	59.9	58.4	16.9	
28	(3)		選択			◎	思					1年C(1)エ	72.2	71.3	4.0	
29		(1)		記述			◎	書くこと	作文	指定された文字数で書くことができる。 3段落構成で文章を書くことができる。 自分の立場を明確に書くことができる。 自分のとった立場の理由を書くことができる。 文章の内容に沿ったまとめを書くことができる。	1年B(1)イ	▼ 71.5	81.8	10.5		
30				記述			◎					○	▼ 68.2	76.3	10.5	
31					記述							◎	87.8	88.9	10.5	
32					記述							◎	1年B(1)ウ	82.5	85.0	10.5
33					記述							◎	▼ 75.6	81.9	10.5	

※「県平均正答率」の欄における、△は、期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は、期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。  
 ※「通し番号」及び「出題のねらい」の欄における、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題。  
 ※「学習指導要領」の欄における、「伝国」は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の略記。

② 平成26～28年度の調査結果の経年比較から

ア 「正答率度数分布」について

・平成26年度，27年度の上位層について，変化はほとんど見られないが，28年度は増加が顕著である。平成27年度は下位層の増加が見られたが，28年度は減少している。

イ 「教科全体」，「基礎・基本」，「思考力・判断力・表現力」について

・「教科全体」，「基礎・基本」，「思考力・判断力・表現力」の期待値とのかい離は，3年間マイナスとなっているが，全て5ポイントの範囲内であり有意差は見られない。

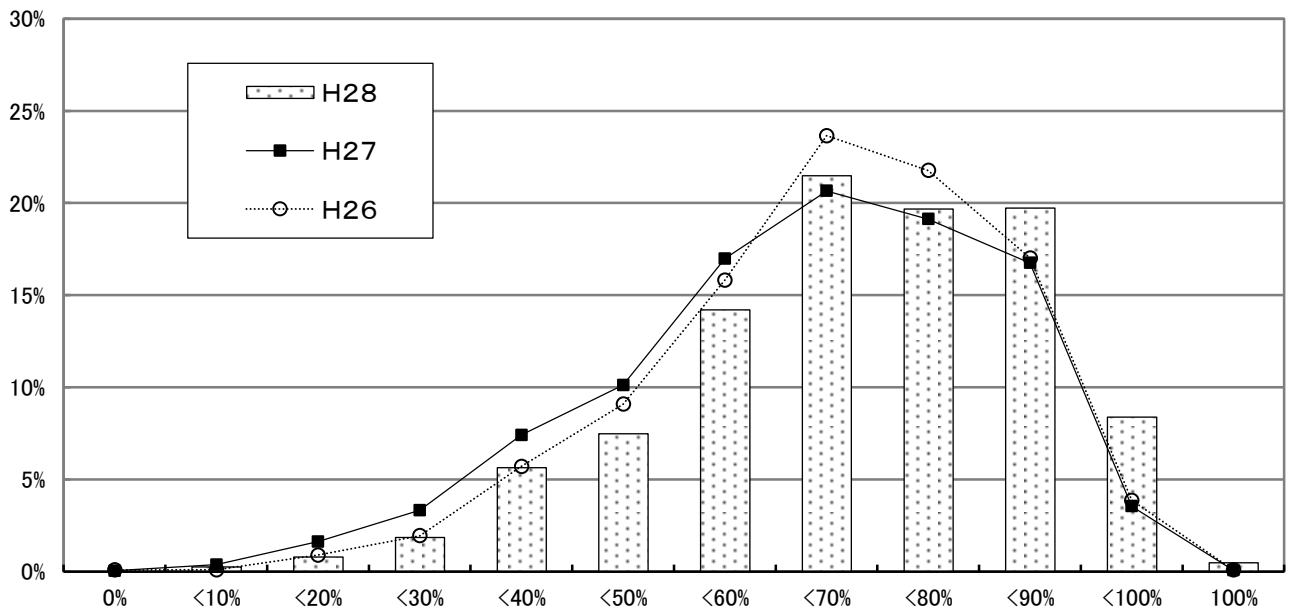
ウ 「領域ごとの比較」について

・「話すこと・聞くこと」，「読むこと」は，期待値とのかい離が平成27年度はマイナスに大きくなったが，28年度はプラスに転じている。3年間期待値とのかい離は5ポイント以内であり，有意差は見られない。

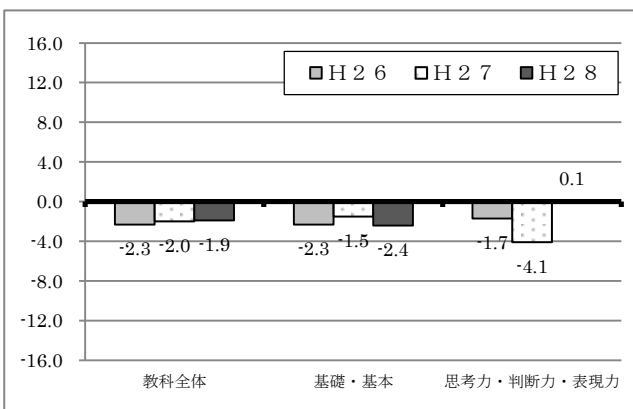
・「言語文化」は期待値とのかい離は，3年間でプラスからマイナスに転じているが，3年間5ポイントの範囲内であり，期待値と同程度である。

・「書くこと」は，期待値とのかい離が平成26年度と28年度はマイナスで5ポイントを超えており，有意差が見られる。平成27年度はプラスで期待値とのかい離が5ポイントを超えており，年度による期待値とのかい離の違いが大きい。

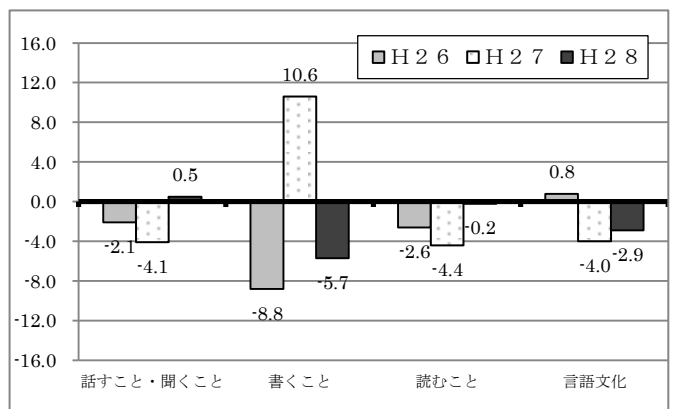
<正答率度数分布>



<全体・基礎・活用の経年比較>



<領域ごとの経年比較>



(5) 中学校(第2学年)数学の調査結果

① 平成28年度調査結果

- ・「教科全体」, 「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」は, 期待値を下回ったものの, かい離は5ポイントの範囲内であり, 有意差は見られないが, かい離が大きくなっている。
- ・「数と式」, 「図形」は期待値をわずかに下回っているものの, かい離は小さくなっている。
- ・「関数」は, 期待値を大きく下回り, かい離も大きくなっている。
- ・「資料の活用」は, 期待値をわずかに下回り, かい離もプラスからマイナスに転じているが, 期待値と有意差は見られない。

<表5> 領域別平均正答率

分類	区分	年度	県平均 正答率	期待値	期待値との 比較
全体 ・ 基礎 ・ 活用	教科全体	H28	58.4	61.2	-2.8
		H27	61.8	63.0	-1.2
		H26	58.9	63.2	-4.3
	基礎・基本	H28	62.0	65.2	-3.2
		H27	63.3	64.9	-1.6
		H26	61.5	66.0	-4.5
	思考力・判断力・表現力	H28	42.6	44.0	-1.4
		H27	56.2	56.0	0.2
		H26	49.7	53.1	-3.4
領域	数と式	H28	63.7	65.1	-0.4
		H27	66.7	68.8	-2.1
		H26	63.6	68.2	-4.6
	図形	H28	64.7	65.2	-0.5
		H27	59.3	60.1	-0.8
		H26	49.3	53.3	-4.0
	関数	H28	39.7	50.1	-10.4
		H27	57.0	60.3	-3.3
		H26	57.9	61.3	-3.4
	資料の活用	H28	55.8	56.3	-0.5
		H27	52.0	46.9	5.1
		H26	61.2	66.3	-5.1

【小問別の問題内容と正答率(中学校 数学)】

通し番号	大問番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県平均正答率	期待値	無解答率				
				考	技	知												
1	1	(1)	短答	◎			数と式	正の数・負の数	正負の数の減法の計算ができる。	中学1年A(1)ウ	▼ 71.9	77.2	2.7					
2		(2)	短答	◎					負の数の累乗を含む除法の計算ができる。		62.0			65.9	2.6			
3	2	(1)	短答	◎			数と式	文字式	文字の部分が同じ項をまとめることができる。	中学1年A(2)ウ	△ 79.2	72.7	2.2					
4		(2)	短答	◎					分配法則を用いる文字式の計算ができる。		71.9			73.0	3.6			
5	3	(1)	選択	◎	○		数と式	1次方程式	方程式とその解の関係を理解し、与えられた解をもつ方程式を選択することができる。	中学1年A(3)ア、ウ	▼ 71.8	77.5	1.2					
6		(2)	短答	◎					1次方程式を解くことができる。		▼ 69.4			74.9	7.1			
7		(3)	短答	◎					比例式を解くことができる。		38.7			36.9	19.5			
8	4	(1)	選択		○	◎	数と式	正の数・負の数	3つの数の大小を不等号を使って表すことができる。	中学1年A(1)ア	84.4	87.4	0.5					
9		(2)	短答			◎			絶対値が4の数をすべて答えることができる。		▼ 70.6			77.9	9.4			
10	5		記述	◎	○		数と式	正の数・負の数	正負の数を利用して表から平均を求めるときの間違いを指摘することができる。	中学1年A(1)エ	△ 34.7	29.7	19.1					
11	6	(1)	選択			◎	数と式	文字式	文字を用いた式の表し方を理解している。	中学1年A(2)イ	55.2	59.8	0.8					
12		(2)	選択			◎			○		式の値を求めるにはどうすればよいのかを理解し、xの値を代入して式の値を求めることができる。			中学1年A(2)エ	58.1	62.8	1.2	
13		(3)	選択						◎		項とは何かを理解し、文字式における項をすべて答えることができる。			中学1年A(2)ア	△ 85.5	73.2	0.8	
14		(4)	選択						◎		○			数量の大小関係を不等号を使って表すことができる。	中学1年A(2)エ	30.1	34.4	1.7
15	7		短答	◎			数と式	1次方程式	方程式のxが何を表しているのかわかる。	中学1年A(3)ア	73.5	73.7	13.1					
16	8		選択	◎			数と式	1次方程式	文章題を方程式で解くために数量を整理した図を正しく理解し、方程式をつくることができる。	中学1年A(3)ウ	62.1	64.1	1.3					
17	9	(1)	選択			◎	関数	比例・反比例	比例の関係にあるxとyを式に表すことができる。	中学1年C(1)エ	▼ 60.4	68.6	1.5					
18		(2)	選択			◎			○		反比例の表から、xとyを式に表すことができる。			64.6	69.6	2.2		
19		(3)	短答						◎		○			与えられた比例の式について、そのグラフ上の点のx座標をもとにy座標を求めることができる。	中学1年C(1)ウ、エ	▼ 28.1	65.8	18.7
20	10	(1)	選択			○	図形	平面図形・空間図形	ある三角形を回転移動させた三角形を選ぶことができる。	中学1年B(1)イ	68.4	67.4	1.0					
21		(2)	短答						◎		○			三角形の高さを表す線分を作図によって表すことができる。	中学1年B(1)ア	△ 60.2	54.1	13.9
22	11	(1)	選択				図形	平面図形・空間図形	直方体で、ある辺とねじれの位置にある辺をすべて選択することができる。	中学1年B(2)ア	71.6	75.0	1.1					
23		(2)	選択	○					◎		投影図から、立体の形を判断することができる。			中学1年B(2)イ	74.5	71.9	0.9	
24	12	(1)	選択	◎		○	図形	平面図形・空間図形	円錐の展開図から、その表面積を求める式を選ぶことができる。	中学1年B(2)ウ	62.9	66.3	1.8					
25		(2)	選択						◎		球の体積を求める式を選ぶことができる。			▼ 50.4	56.6	1.7		
26	13	(1)	①	選択			資料の活用	資料の散らばりと代表値	度数分布表を正しく読み取ることができる。	中学1年D(1)ア	81.1	79.1	1.2					
27			②	選択					◎		○			度数分布表から、階級の相対度数を求めることができる。	62.9	60.4	2.4	
28		(2)	選択						◎		○			有効数字について正しく理解し、ある距離の測定値を10の累乗を使った形に表すことができる。	中学1年D(1)イ	53.3	52.7	2.9
29	14		短答				資料の活用	資料の散らばりと代表値	あるデータの最頻値を求めることができる。	中学1年D(1)ア	▼ 25.9	32.8	29.5					
30	15	(1)	①	選択			関数	比例・反比例	問題文中の比例の関係と同じ式になる関係を選択することができる。	中学1年C(1)ア、エ	26.3	24.0	3.0					
31			②	短答	◎						○			思	比例の考えを利用し、目的地に着くまでに何分かかかるのか予想することができる。	中学1年C(1)エ	32.1	33.4
32		(2)	記述	◎					○		表			グラフを読み取り、燃費のいい車を表したグラフを選択して、そう判断した理由を説明することができる。	中学1年C(1)エ、オ	▼ 26.6	39.0	8.6

※「県平均正答率」の欄における、△は、期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は、期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。  
 ※「通し番号」及び「出題のねらい」の欄における、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題。



② 平成26～28年度の調査結果の経年比較から

ア 「正答率度数分布」について

・分布の範囲は、3年間ともほぼ同様であるが、下位層がやや増加傾向にある。

イ 「教科全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」について

・「教科全体」、「基礎・基本」は、期待値を下回って推移してきているものの、平成26年度より28年度のかい離は小さくなっている。3年間とも、かい離は5ポイントの範囲内であり、期待値と有意差は見られない。

・「思考力・判断力・表現力」は、平成27年度に期待値を上回ったものの28年度には期待値を下回っているが、かい離は5ポイントの範囲内であり有意差は見られない。

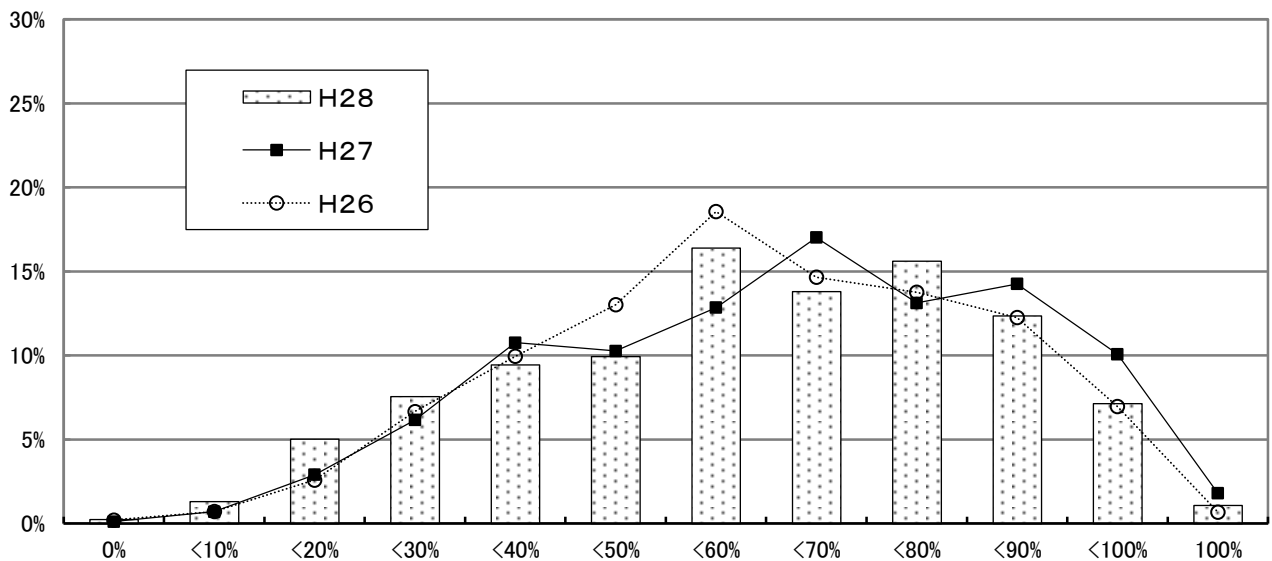
ウ 「領域ごとの比較」について

・「数と式」、「図形」では、年度を追うごとに期待値とのかい離は小さくなっており、3年間全て5ポイントの範囲内で有意差は見られない。

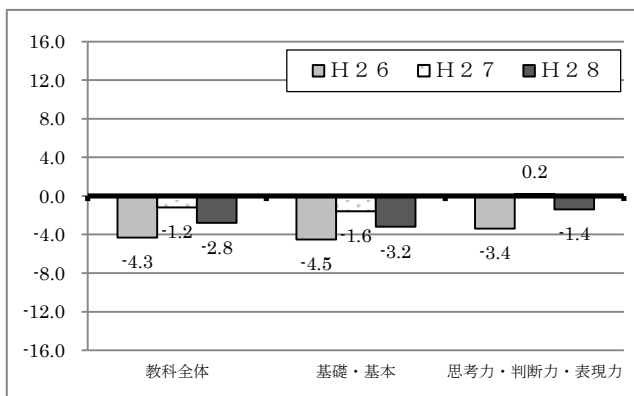
・「関数」は、3年間とも期待値を下回っており、特に28年度調査では期待値を10.4ポイント下回り、かい離が大きくなった。

・「資料の活用」は、平成27年度は期待値を上回ったものの、26年度、28年度は下回っている。しかし、28年度のかい離は、26年度より小さくなり、かい離は5ポイントの範囲内であり有意差は見られない。

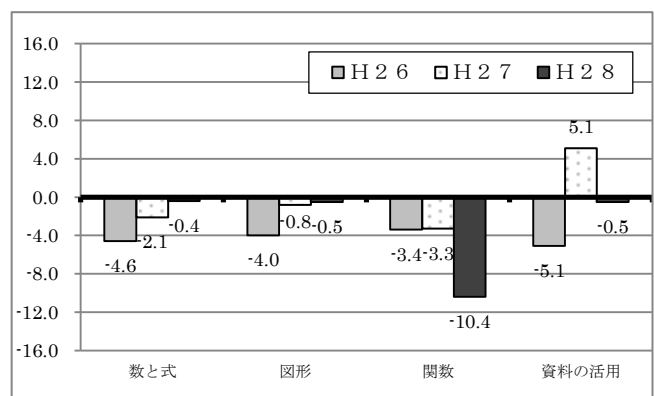
<正答率度数分布>



<全体・基礎・活用の経年比較>



<領域ごとの経年比較>



(6) 中学校(第2学年)英語の調査結果

① 平成28年度調査結果

- ・「教科全体」,「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」は,期待値を下回ったもののかい離は5ポイントの範囲内であり,有意差はなく,かい離も小さくなっている。
- ・「聞くこと」は,期待値を上回るとともに,かい離もマイナスからプラスに転じている。
- ・「読むこと」,「書くこと」は,期待値を下回ったもののかい離は5ポイントの範囲内であり,有意差はなく,かい離も小さくなっている。

<表6> 領域別平均正答率

分類	区分	年度	県平均 正答率	期待値	期待値との 比較
全体 ・ 基礎 ・ 活用	教科全体	H28	67.3	68.1	-0.8
		H27	65.6	68.3	-2.7
		H26	69.3	70.7	-1.4
	基礎・基本	H28	72.2	72.5	-0.3
		H27	71.2	73.5	-2.3
		H26	73.8	75.3	-1.5
	思考力・判断力・表現力	H28	52.2	54.1	-1.9
		H27	47.5	51.1	-3.6
		H26	53.9	55.3	-1.4
領域	聞くこと	H28	79.4	77.5	1.9
		H27	77.5	78.7	-1.2
		H26	76.2	71.9	4.3
	読むこと	H28	61.7	63.0	-1.3
		H27	63.4	66.5	-3.1
		H26	70.9	71.7	-0.8
	書くこと	H28	63.8	65.8	-2.0
		H27	58.3	61.7	-3.4
		H26	60.0	68.1	-8.1

【小問別の問題内容と正答率(中学校 英語)】

通し番号	大問番号	中間番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県平均正答率	期待値	無解答率
					表	理	知								
1		(1)		選択	◎				聞くこと	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と時刻)	ア(ア), (イ)	94.2	93.4	0.1
2	1	(2)	選択	◎				絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(位置)			△ 89.5		76.7	0.1	
3		(3)	選択	◎				絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(日付)			▼ 78.0		85.3	0.2	
4		(1)		選択	◎				聞くこと	リスニング(対話文の応答)	対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(住んでいる場所をたずねられて)	ア(ア), (ウ)	80.7	81.9	0.3
5	2	(2)	選択	◎				対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(お礼を言われて)			83.2		79.8	0.2	
6		(3)	選択	◎				対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(だれかとたずねられて)			76.7		79.9	0.4	
7		(1)		選択	◎				聞くこと	リスニング(内容理解)	英文の要点を聞き取ることができる。(英語の先生はだれか)	ア(ア), (オ)	75.1	76.8	0.4
8	3	(2)	選択	◎				英文の要点を聞き取ることができる。(日曜日にすること)			74.3		66.1	0.5	
9		(3)	選択	◎				英文の要点を聞き取ることができる。(テニスをいつするか)			63.0		57.7	0.7	
10		(1)	①	選択		◎			読むこと	語形・語法の知識・理解	語形・語法を理解することができる。(三単現の疑問文の形)	ウ(ア)	55.8	57.2	0.3
11			②	選択		◎					語形・語法を理解することができる。(現在進行形)		67.9	66.3	0.5
12			③	選択		◎					語形・語法を理解することができる。(一般動詞の過去形)		72.2	71.3	0.7
13			④	選択		◎					語形・語法を理解することができる。(代名詞の目的格の形)		▼ 58.4	65.1	3.5
14		(2)	①	短答		◎			書くこと	語彙の知識・理解	単語を正しく書くことができる。(箱)	エ(ア)	85.9	88.3	5.0
15			②	短答		◎					単語を正しく書くことができる。(冬)		62.9	67.4	11.5
16			③	短答		◎					単語を正しく書くことができる。(話す)		74.5	76.4	6.3
17			④	短答		◎					単語を正しく書くことができる。(お気に入りの)		53.0	50.1	17.8
18		(1)		選択	◎		思	読むこと	さまざまな英文の読み取り	英文と資料の情報・条件をもとに、合計金額を出すことができる。	ウ(エ)	65.2	68.1	0.5	
19	5	①	選択	◎		思				対話の流れとグラフから、適切な趣味を判断することができる。		63.7	60.6	1.1	
20		②	選択	◎		思				対話の流れとグラフから、登場人物の適切な発言を判断することができる。		46.3	48.2	2.0	
21		(1)		選択	◎			読むこと	長文の読み取り	スピーチの内容を把握することができる。	ウ(ウ)	83.3	84.7	0.9	
22		(2)	選択	◎						代名詞itの内容を把握することができる。		66.7	67.8	1.2	
23		(3)	記述	◎	◎	表				スピーチの内容に関する質問に英語で答えることができる。	ウ(ウ) エ(ア), (イ)	28.5	31.7	26.8	
24		(4)	選択	◎						スピーチの要点を把握することができる。	ウ(ウ)	70.4	71.7	1.6	
25		(1)		短答	○	◎		書くこと	単語の並べかえによる英作文	英文を正しい語順で書くことができる。(主語+be動詞+補語)	エ(ア), (イ)	87.4	86.3	3.2	
26		(2)	短答	○	◎					英文を正しい語順で書くことができる。(Whenで始まる一般動詞の過去の疑問文)		52.5	52.1	4.7	
27		(3)	短答	○	◎					英文を正しい語順で書くことができる。(canの否定文)		67.0	67.6	4.0	
28		(4)	短答	○	◎					英文を正しい語順で書くことができる。(Whatで始まる現在進行形の疑問文)		66.0	68.6	4.3	
29		(1)		記述	◎		表	書くこと	場面に応じて書く英作文	英語でたずねる文を書くことができる。(相手の学校の場所をたずねる)	エ(ア), (イ)	25.3	27.9	25.9	
30	8	(2)	記述	◎		表				英語でさそう文を書くことができる。(相手を動物園にさそう)		47.7	44.5	22.6	
31				記述	◎			書くこと	3文以上の英作文	友達または家族の名前の紹介に続いて、その人物について紹介する文を書き表すことができる。	エ(エ)	▼ 65.9	75.0	17.4	
32	9			記述	◎	表						71.5	72.4	17.4	
33				記述	◎	表						▼ 69.3	79.1	17.4	

※「県平均正答率」の欄における、△は、期待値とのかい離が5ポイント以上上回ったもの。▼は、期待値とのかい離が-5ポイント以上下回ったもの。  
 ※「通し番号」及び「出題のねらい」の欄における、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題。

② 平成26～28年度の調査結果の経年比較から

ア 「正答度数分布」について

・上位層及び下位層が減少し、中位層が多くなっている。

イ 「教科全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」について

・「教科全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」は、3年間全て期待値を下回ったが、かい離は小さく期待値と有意差は見られない。

・「教科全体」、「基礎・基本」は、平成28年度のかい離が一番小さくなっている。

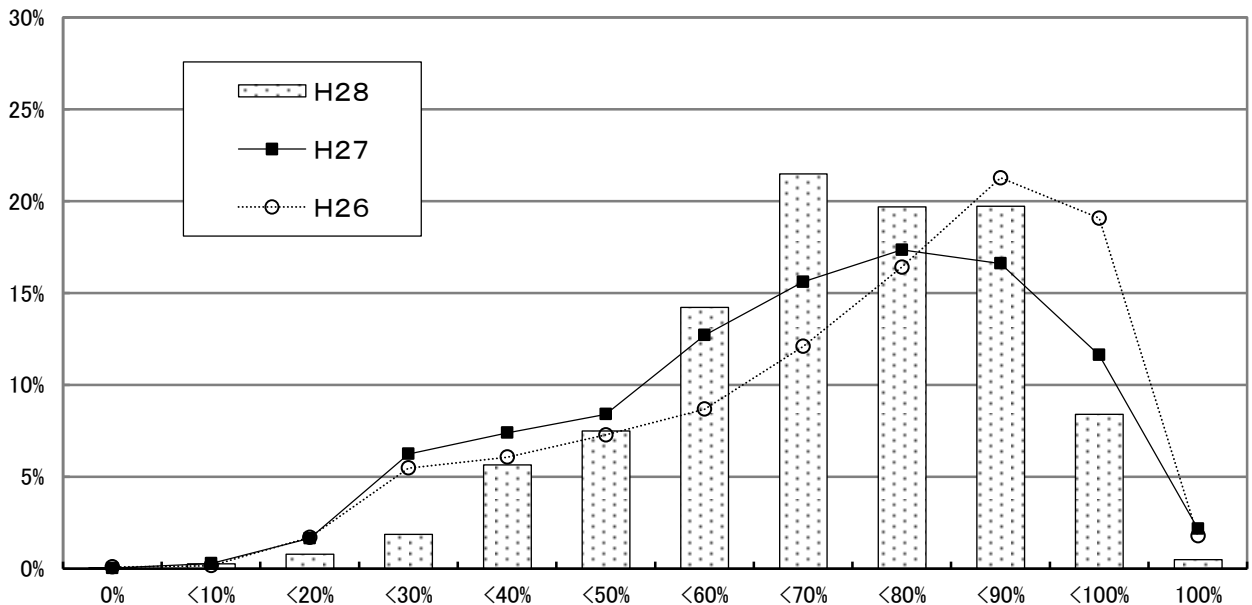
ウ 「領域ごとの比較」について

・「聞くこと」については、平成27年度にマイナスになってはいるものの28年度で再度プラスに転じている。3年間、期待値とのかい離は5ポイントの範囲内であり有意差は見られない。

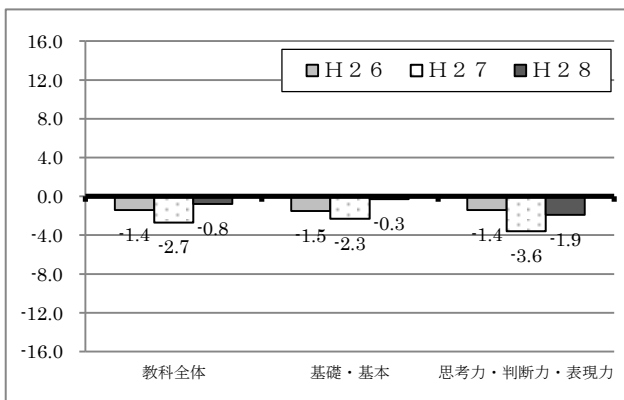
・「読むこと」については、3年間、期待値を下回っているものの、5ポイントの範囲内であり期待値と有意差は見られない。

・「書くこと」については、3年間、期待値を下回っているものの5ポイントの範囲内であり、有意差は見られない。3年間で、かい離は年々小さくなり、期待値と同程度となっている。

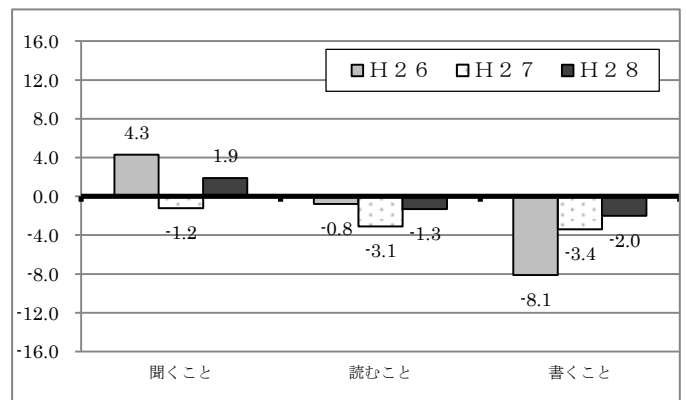
<正答率度数分布>



<全体・基礎・活用の経年比較>



<領域ごとの経年比較>



### 3 魅力ある授業づくりのポイント

これまで「宮城県検証改善委員会報告書」や「サポートプログラム事業報告書」等で、授業づくりの中核部分として大事にしたいことやその時々教育課題にかかわる内容について、授業づくりのポイントとして整理し示してきています。また、各学校の全ての先生方、全ての教室ですぐに取り組んでいただきたい事項として「学力向上のための5つの提言」と「算数・数学のステップ・アップ5」をまとめ、各学校においては実践化が図られているところです。

本報告書では、これまでの報告書で示してきた内容や3年間の調査結果及び各教科の特性を踏まえ、「5つの提言」や「ステップ・アップ5」の視点から、あるいは領域ごとに授業づくりのポイントを示すこととしました。

#### (1) 国語の授業づくりのポイント

- 言語の教育としての立場を一層重視し、実生活で生きてはたらし、各教科等の基本ともなる国語の能力を身に付けさせることが求められています。特に、言葉を通して的確に理解し論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことが重視されています。

**【ねらいの明確化】 指導事項を基にして本時のねらいを明確にしよう。 ～5つの提言 3～**

【ポイント】 小学校「C 読むこと」におけるねらいの設定について

	学習指導要領における指導事項	本時のねらい (例)
第1学年 及び 第2学年	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	第2学年「お手紙」(東京書籍) ・「それぞれの場面でがまくんがしたことと、かえるくんがしたことをまとめよう」(第2時)
第3学年 及び 第4学年	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	第4学年「走れ」(東京書籍) ・「それぞれの場面でののぶよの気持ちを考えて、気持ちの変化をまとめよう」(第5時)
第5学年 及び 第6学年	エ 登場人物の相互関係や心情場面についての描写をとらえ優れた叙述について自分の考えをまとめること。	第6学年「風切るつばさ」(東京書籍) ・「クルルとカララの関係に着目し、クルルの心情の変化について説明しよう」(第3時)

※各学年の指導事項は異なります。「登場人物の気持ちを考えよう」だけではなく、指導事項を踏まえたねらいを設定しましょう。

**【課題設定】 課題解決的な活動を通し、思考・判断・表現できる言語活動を設定しよう。**

【ポイント】 中学校第2学年国語科における言語活動の設定について (例)

	学習指導要領における言語活動例	単元に位置付ける言語活動 (例)
書くこと	ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。	「職場体験の訪問先の方々へお礼状を書こう」
読むこと	ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。	「物語の展開や表現の仕方にどのような工夫が見られ、どのような効果を上げているか、話し合おう」

※単元全体に位置付ける言語活動と1単位時間における言語活動、双方の設定の仕方が大切です。また、理解したことや学んだことを発信するような言語活動を工夫しましょう。

**【自力解決】発問や課題に対し、一人一人に考えを持たせよう。 ～5つの提言 4～**

【ポイント】考える時間を設定し、ノートに自分の考えを書かせます。課題の解決に向けて、言葉で深く考えさせ、言葉を駆使して表現させましょう。

**【集団解決】児童生徒同士の「学び合い」を大切にしよう。**

【ポイント】一人一人の考えを話し合いながら整理させ、発表させる手立てを工夫しましょう。

何のために？（目的）	どのように？（手段）
① 新しい考えを生み出すために	① ペアで
② 自分の考えを深めるために	② グループで
③ 新たな知見を得るために	③ 学級全体で
④ 異なる意見を知るために	④ 学級・学年を越えて
など	⑤ 学校外の人と など

**【振り返り】振り返ることで学びを実感させよう。 ～5つの提言 3～**

【ポイント】どのような内容が書かれていれば、付けたい力が付いたといえるのかをしっかりと押さえます。

例：小学校国語科第6学年 「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」（東京書籍）

- ・単元に位置付ける言語活動 「宮城の町づくりについて提案しよう」
- ・第7時 本時のねらい 「宮城の未来の姿について考えながら、プレゼンテーションに必要な情報を集めよう」
- ・評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力
・宮城の未来の姿について考え、プレゼンテーションに必要な情報を集めようとしている。	・町づくりの提案をするために複数の本や文章などを比べて読み、必要な情報を選んでいる。

- ・振り返りの記述例
  - 条件 ① 「宮城の未来の姿」
  - ② 「プレゼンテーションに必要な情報」
  - ③ 字数（50～80字）

△今日の授業は楽しかった。またやってみたいと思った。（条件①②③を満たしていない）

○本を選んで、目次や索引の中に自分の知りたい内容とワードを探して、そのページを開いて情報を集めた。（条件②③は満たしている。条件①を満たしていない）

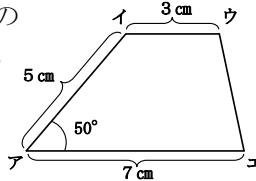
◎「花いっぱいロード」を提案しようと考えている。季節ごとに、道路にはどんな花が植えられているのかを調べている。地域の人に好きな花アンケートを取ろうとも思っている。（条件①②③を満たしている）

※条件と字数を示して記述させることが大切です。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）を基に評価についても確認しましょう。

## (2) 算数・数学の授業づくりのポイント

「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示 ～ステップ・アップ5 **1**～

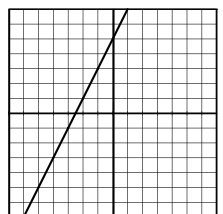
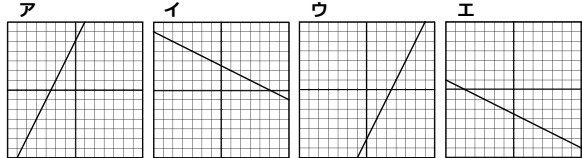
- ① **実践例1** 小学校4年「垂直・平行と四角形」(東京書籍 新しい算数 4年上)  
**【テーマ】** 既習内容の定着を図りながら、解決への見通しが持てる課題設定の工夫

<p><b>【課題】</b> 次の台形のかき方を考えよう。</p> 	<p><b>【授業改善の視点】</b>                  平行四辺形の作図の理解を確かなものにするために、既習の知識・技能を活用する学習課題として台形の作図を取り上げ、既習内容をもとに解決への見通しを持たせ、学習意欲の想起を図る。</p>
---	---

**【指導のポイントと具体例】**

- ◆児童に身に付けさせたい学習内容を具体的におさえておく。  
 [例] 平行四辺形の作図方法 (三角定規2枚で平行をとる作図方法, コンパスで同じ辺の長さをとる方法)  
 台形の性質
- ◆学習への見通しを持たせる発問を吟味する。  
 [例] 「平行四辺形のかき方が使えそうなところはどこですか」「平行四辺形のかき方との違いは何ですか」
- ◆身に付けさせたい学習内容が定着するよう、具体の活動になる課題の設定をする。  
 [例] 「平行四辺形のかき方を利用して、台形のかき方を説明しよう」

- ② **実践例2** 中学校2年「3章1次関数(1次関数を求めること)」(東京書籍 新しい数学2)  
**【テーマ】** 不十分な課題の提示から、自ら方向性を探り、解決意欲を高める工夫

<p><b>【課題】</b> 1次関数のグラフから式を求めるには、どのようなことが分かればよいのでしょうか。</p> 	<p><b>【授業改善の視点】</b>                  x軸とy軸の表記のない座標平面に、1次関数のグラフをかいた用紙を配布する。情報が不十分という生徒の反応を基に、用紙をどのように置き、グラフのどこから切片と傾きを読み取るのかを思考させる。</p> 
--	---

**【指導のポイントと具体例】**

- ◆生徒に身に付けさせたい既習の学習内容を引き出し、全体で共有を図る。  
 [例] 「どうしてその向きに置くと、グラフから式が求められると思ったの? 他の置き方では、どうかな?」  
 [例] 1次関数  $y = ax + b$  のグラフは、傾きが  $a$ 、切片が  $b$  の直線である。
- ◆学習への見通しを持たせる発問を吟味する。  
 [例] 「ごめんね。先生、どちらがx軸とy軸なのか、うっかり書き忘れてしまいました。こうしたら式が求められると思う向きに、グラフを置いてみようか」

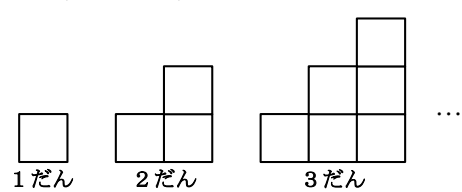
「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫 ～ステップ・アップ5 **2**～

- ① **実践例1** 小学校4年「変わり方調べ」(東京書籍 新しい算数 4年下)  
**【テーマ】** 式, 図, 表, グラフ, 数直線などを使って整理したことを, 互いに読み取らせる工夫

**【問題】** 1辺が1cmの正方形のあつ紙を, 下の図のように1だん, 2だん, ...と並べて階段の形を作ります。次の問いを考えましょう。

(1) 20だんのときの, まわりの長さを求めましょう。  
 (※「東京書籍 4年下」で設問)

(2) 10だんのときの, 正方形の数を求めましょう。  
 (※「平成28年度算数チャレンジ大会」の出題問題)



**【授業改善の視点】**

「算数チャレンジ大会 2016」で出題された問題を用い、図や表を基にして考えたことを、二つの数量の変化の規則性について言葉や式で説明する活動を設定することで、数学的な考え方を広げさせたり深めさせたりする。

**【指導のポイントと具体例】** (2)の設問に関して

◆表にまとめた二つの数量の変化について、互いに考えを交流し、数量の変化の見方を広げたり深めたりする学び合いの場を設定する。

〔例〕

だんの数	1	2	3	4	・・・	10
正方形の数	1	3	6	10	・・・	?

- ・正方形の数の増え方は、2, 3, 4・・・というように増えている。
- ・正方形の数は、段が一つずつ増えるごとに、その前の正方形の数に段の数を足した数で求められる。
- ・段の数を全て足していくと正方形の数になる。
- ・段の数を○, 正方形の数を□にすると、 $1 + 2 + 3 + \dots + \bigcirc = \square$ で求められる。

## ② 実践例2 中学校1年「4章 比例と反比例(比例と反比例の利用)」(東京書籍 新しい数学1)

【テーマ】グループ間の交流から、多様な考えに気付かせる学び合いの工夫

【問題】シュレッダーで細かくされたコピー用紙のゴミがあります。その重さを測ったら、5.6kgでした。このゴミはA4のコピー用紙何枚分になるか求めなさい。

【課題】どんな方法で求めたか説明しなさい。

**【授業改善の視点】**

自分とは違う考えをしっかりと聞き取り、それをグループに持ち帰って、仲間に分かりやすく説明し合う活動を設定する。また、説明を聞いて理解できたことを、ノートにまとめる活動も行う。

【表を用いる方法】2.8倍  

重さ(kg)	2	→	5.6
枚数(枚)	500		□

 $500 \times 2.8 = 1400$  (枚)

【比例式を用いる方法】  
 コピー用紙の枚数を  
 $x$ 枚として  
 $2 : 5.6 = 500 : x$

【枚数は重さに比例する考えを用いる方法】  
 重さ  $x$ kg, 枚数を  $y$ 枚とすると  
 $y = 250x$   
 $y = 250 \times 5.6$   $y = 1400$

**【指導のポイントと具体例】**

- ◆同じ考えのグループを作り、相互に説明し合い、自分の考えを確かなものにする。
- ◆各班から代表1名を違う考えの班に派遣し、自分たちの考えを説明させる。
- ◆代表の生徒を自分の班に戻し、説明を受けた違う班の考えを、仲間に分かりやすく説明させる。

## 「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定 ～ステップ・アップ5 3～

## ① 実践例1 小学校4年「小数のかけ算とわり算」(東京書籍 新しい算数 4年下)

【テーマ】生活場面に生かすことができる適用問題の工夫

**【指導のポイントと具体例】**

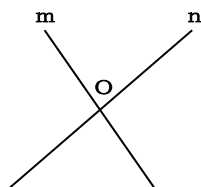
◆日常生活との関連を図りながら、小数のわり算の意味理解を図る。

〔例〕「500mLで79円のペットボトルの水と、1.5Lで198円のペットボトルの水と、2Lで278円のペットボトルの水があります。一番得なのは、何Lのペットボトルの水を買うことでしょうか。」

## ② 実践例2 中学校2年「4章 平行と合同(証明のすすめ方)」(東京書籍 新しい数学2)

【テーマ】生活場面に生かすことができる適用問題の工夫

【問題】直線  $m$  と  $n$  が点  $O$  で交わっている図があります。この図の中に、2本の線分をかき入れて、「平行と合同」に関する証明の問題を作ってみよう。

**【指導のポイントと具体例】**

- ◆2本の線分をかき入れる際、どのような条件を付加することにより、証明問題として成立するかを考えさせる。
- ◆完成した証明問題を、ペアやグループで互いに解き合う。
- ◆誤答を取り上げ、どの条件を変更すれば問題として成立するかを考える。また、付加する条件によって、証明の難易度が違ってくことも確認する。



### (3) 英語の授業づくりのポイント

- 小学校外国語活動で育まれたコミュニケーション能力の素地の基に「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の四つの技能をバランスよく育成することが求められます。今後、四つの技能をバランスよく育成するために、以下の点に留意して授業づくりを行うことが望まれます。

**「聞くこと」** ① 小学校外国語活動で「聞くこと」にどの程度慣れ親しんでいるかを把握しよう。  
② 聞くポイントを明確に示し、質問・指示等に適切に応じられるようにしよう。

- ① 小学校段階で「聞くこと」についてはある程度慣れ親しんできています。生徒が「聞くこと」について実際にどの程度の状況にあるのかを適切に把握しつつ、その状況に応じて、「聞くこと」に関する指導の重点の置き方について柔軟に対応することが必要となってきます。

#### 【指導のポイント】

小学校・中学校で連携し、外国語活動でどのような言語活動を行っているか、どのような題材を取り上げているか等を確認し合い、指導に生かしましょう。

- ② 「聞くこと」を中心とした言語活動を行う場合は、聞くポイントを明確にしたり、単に英語を聞いてその意味を表面的に理解するだけでなく、話し手の意向などを理解できるようにさせたりすることが重要です。まとまりのある複数の英文を聞き、話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解できるようになる活動を取り入れましょう。

#### 【指導のポイント】

スピーチや機内アナウンス、天気予報などを通して、概要や内容の要点を捉えさせる活動を実践しましょう。

**「話すこと」** ① 言語活動を工夫し、実際に生徒が話す場面を多く設定しよう。  
② 話す目的を意識させた言語活動を実践しよう。  
③ 書いたものを読ませるのではなく、伝えることを目標とした指導を意識しよう。

- ① ペアやグループなどの学習形態の工夫による活動や自分の考えや意見を簡単にスピーチする活動を計画的に設定し、生徒に英語を話す機会を多く与えましょう。

#### 【指導のポイント】

言語材料の理解・定着のための練習と言語を使用する活動のバランスを大切にしましょう。また、言語活動の充実を図るため、ICTを効果的に活用しましょう。

- ② 「何について話すのか」に加え、「なぜ話すのか」を明確に示し、コミュニケーションの意義・目的を理解させながら、活動させましょう。

#### 【指導のポイント】

実際の会話の場面を設定し、その場面や状況にふさわしい表現を選択できるような手立てを図りましょう。

- ③ 話す内容を、ワークシートにまとめ、読み上げさせるのではなく、聞き手を意識した言語活動を実践しましょう。聞き手に分かりやすく、伝えることを目標とし、間違いを恐れず、堂々と話す姿勢を身に付けさせましょう。

#### 【指導のポイント】

「つなぎ言葉」などコミュニケーションを円滑にする言語の働きを理解させ、文法の正確性だけにとらわれず、聞き手に伝わることを重視する言語活動を取り入れましょう。

- 「読むこと」**
- ① 書き手の伝えようとすることを正確に読み取ることを大切にしよう。
  - ② 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したりなどすることができるように、書かれた内容や考え方などを捉えさせよう。

- ① 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを読み取らせるためには、一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定の部分にのみとられることなく、書き手の伝えようとすることを正確に読み取らせることが重要です。

**【指導のポイント】**

手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をしたりするなど、設問の仕方を工夫しましょう。また、ある程度の長さの英文を読むことに慣れ親しませるために、日頃から初読の英文を読む習慣づけを行いましょ。

- ② 「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」と結び付け統合的に指導しましょう。

**【指導のポイント】**

目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を計画的・系統的に行いましょう。

- 「書くこと」**
- ① 学んだことを振り返るために書く活動を取り入れよう。
  - ② 年間指導計画に「書くこと」の指導を適切に位置づけ、計画的に指導しよう。
  - ③ 家庭学習を効果的に活用しよう。

- ① 「書くこと」は思考をまとめるのに有効です。授業のまとめに、自己評価として学んだことを書かせ、定着につなげましょう。

**【指導のポイント】**

授業のまとめで、授業で学んだ基本本文を基に1・2文の英文を書かせましょう。

- ② 「書くこと」を定着させるためには計画的な指導が重要になります。年間指導計画作成段階で、「書くこと」の指導を目標とした単元を設定し、意図的に指導する場面を取り入れましょう。

**【指導のポイント】**

各校の「CAN-DOリスト」に基づき、年間指導計画に「書くこと」を目標とした単元を適切に位置付け、系統的な指導を行いましょ。

- ③ 「書くこと」の指導において、授業で学んだことを基に、家庭学習を効果的に活用することで定着が期待できます。書く目的を明確にし、生徒が書きたいと思えるテーマを設定することが大切です。

**【指導のポイント】**

家庭学習として、身近なテーマについて自分の考え等を書かせる活動を取り入れましょ。書かせた英文は次時の授業で紹介したり、発表させたりし、成功体験から生徒の意欲・関心を高めましょ。

#### 4 質問紙調査結果の概況

※「回答」欄の数値は、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の割合を合計した値（％）

※「経年比較」欄の数値は、上段はH28とH27、下段はH27とH26の回答の割合の差

※番号に網掛けのある質問事項は、グラフを提示

##### (1) 児童生徒質問紙調査の結果

###### ① 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項

- 先生から声を掛けられたり、励まされたりすると回答している割合は小5、中2ともに約7割となっている。先生が話を聞いてくれるとする割合は、小5で約9割、中2は8割の半ばとなっている。良いところを認めてくれるとしている割合は小5、中2ともに約8割となっている。  
また、3つの質問の27年度との経年比較については、中2の一部項目を除き、マイナスになっている。
- 授業のはじめに目標を示されていると思っている割合は、小5、中2ともに8割を超え、27年度との経年比較はプラスとなっている。  
また、授業の終末に振り返る活動をよく行っていると思っている割合は、27年度との経年比較はプラスになっているものの小5は約7割、中2は約6割となっている。
- 自分の考えをノートに書くようにしている割合は、27年度との経年比較はプラスとなっているものの小5は約8割、中2では約6割となっている。
- 家で授業の予習をしている割合は、小5、中2ともに約5割となっており、27年度との経年比較については小5はマイナス、中2はプラスとなっている。  
また、復習をしている割合は、小5、中2ともに27年度との経年比較はプラスとなっているものの6割前後である。
- 平日の家庭での勉強時間について、小5で1時間以上勉強している割合は、27年度との経年比較はプラスとなっているものの6割未満となっている。  
また、中2で2時間以上勉強している割合は、27年度との経年比較はプラスとなっているものの3割未満となっている。

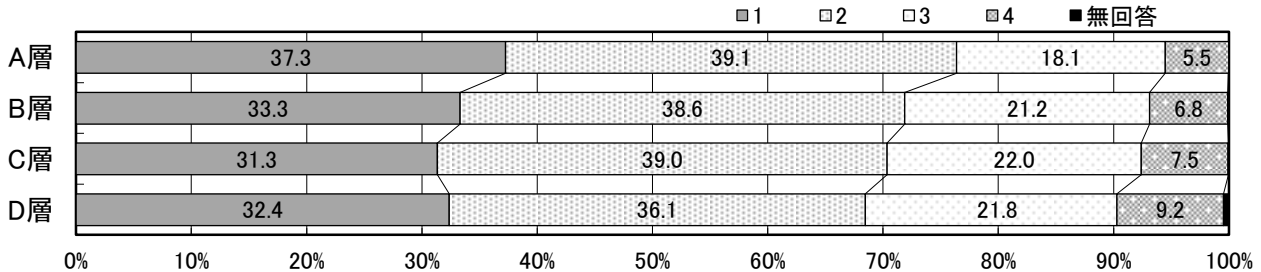
質問事項		年度	小学校5年生		中学校2年生	
			回答	経年比較	回答	経年比較
1	先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか	H28	71.7	-2.0	71.2	0.5
		H27	73.7		70.7	
		H26	69.7	4.0	65.5	5.2
2	先生はあなたの話を聞いてくれますか	H28	89.6	-2.1	85.3	-0.1
		H27	91.7		85.4	
		H26	86.8	4.9	79.5	5.9
3	先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか	H28	82.8	-2.0	79.3	-0.9
		H27	84.8		80.2	
		H26	81.0	3.8	75.8	4.4
4	授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか	H28	84.3	2.2	86.3	7.4
		H27	82.1		78.9	
		H26	80.5	1.6	73.5	5.4
5	授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか	H28	69.9	3.2	63.5	6.5
		H27	66.7		57.0	
		H26	66.1	0.6	52.2	4.8
6	授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか	H28	78.2	6.3	64.2	8.7
		H27	71.9		55.5	
		H26	73.9	-2.0	50.6	4.9
7	家で学校の授業の予習をしていますか	H28	48.2	-0.1	49.4	8.5
		H27	48.3		40.9	
		H26	44.2	4.1	36.8	4.1
8	家で学校の授業の復習をしていますか	H28	58.1	0.5	63.2	4.6
		H27	57.6		58.6	
		H26	57.9	-0.3	50.6	8.0
9	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師含む、小学校：1時間以上、中学校：2時間以上）	H28	55.6	2.9	25.6	1.4
		H27	52.7		24.2	
		H26	56.8	-4.1	22.1	2.1
10	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師含む、小学校：2時間以上、中学校：3時間以上）	H28	21.1	-0.8	14.8	2.0
		H27	21.9		12.8	
		H26	21.8	0.1	13.1	-0.3

◇小5における「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項と教科の平均正答率のクロス集計

《選択肢》1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない  
 ※ 正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。  
 上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。

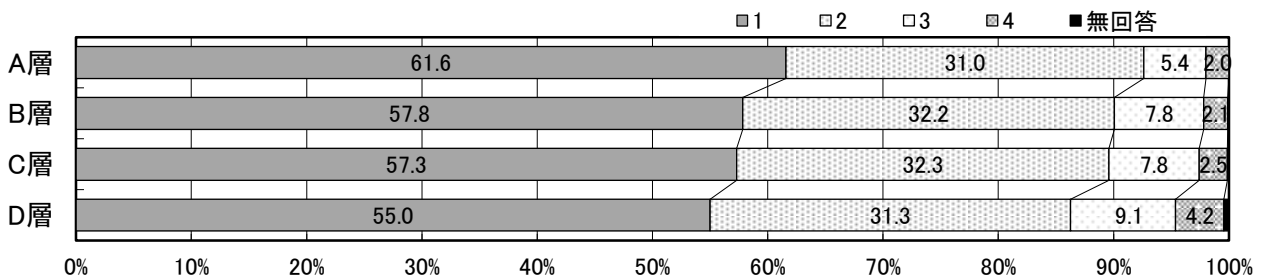
○ 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしている」と回答している児童生徒の方が、正答率がやや高い傾向が見られる。(中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

該当する質問事項1 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



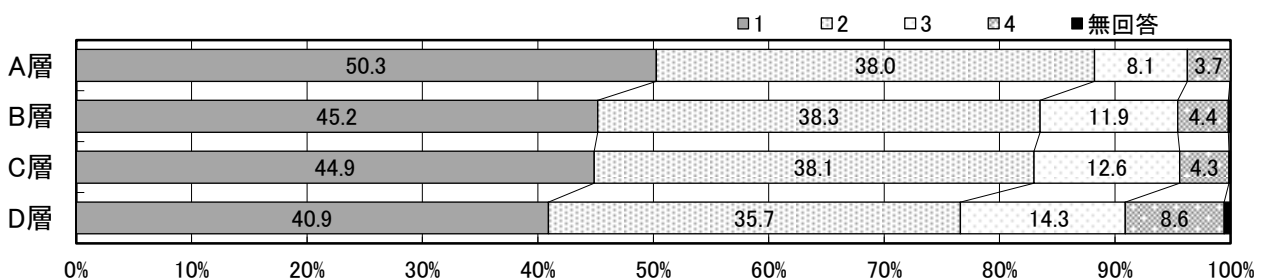
○ 「先生が話を聞いてくれる」と回答している児童生徒の方が、正答率がやや高い傾向が見られる。(中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

該当する質問事項2 「先生はあなたの話を聞いてくれますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



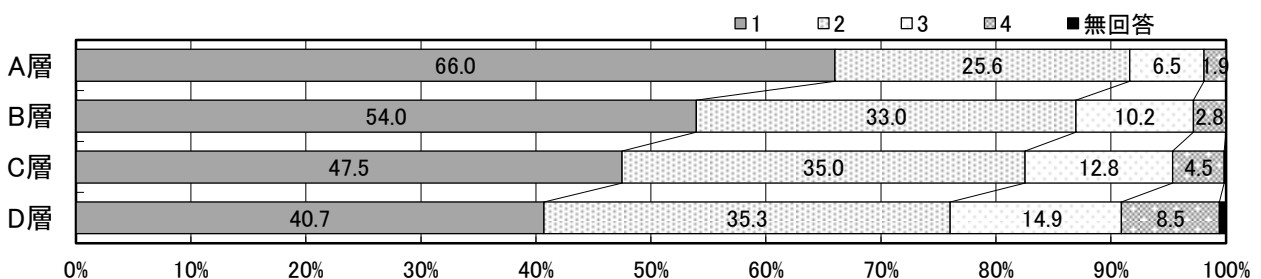
○ 「先生が、良いところを認めてくれている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。(中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

該当する質問事項3 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



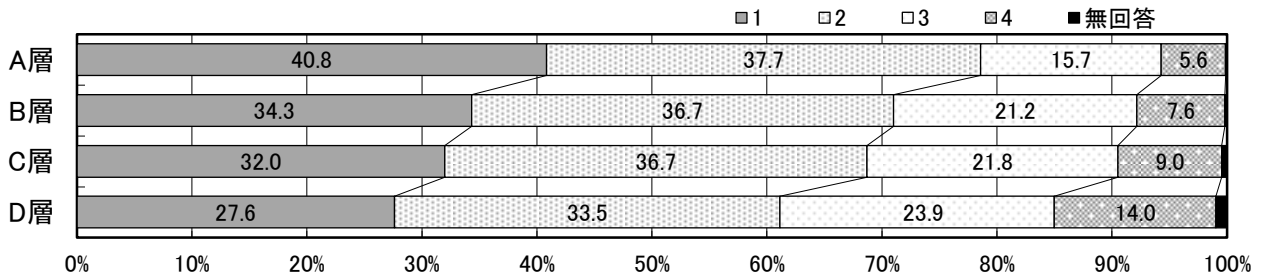
○ 「授業のはじめに先生から目標(めあて・ねらい)が示されていた」と回答している児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。(中2においては、やや見られる)

該当する質問事項4 「授業のはじめに先生から目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果

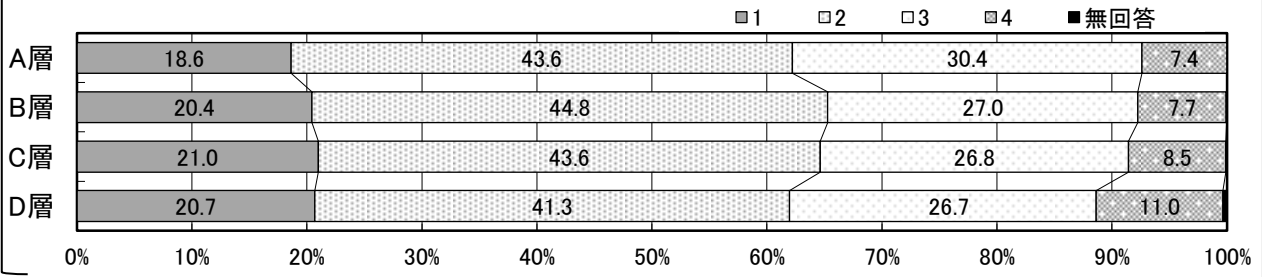


○ 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われている」と回答している児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。(中2においては、顕著な傾向は見られない)

該当する質問事項5 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果

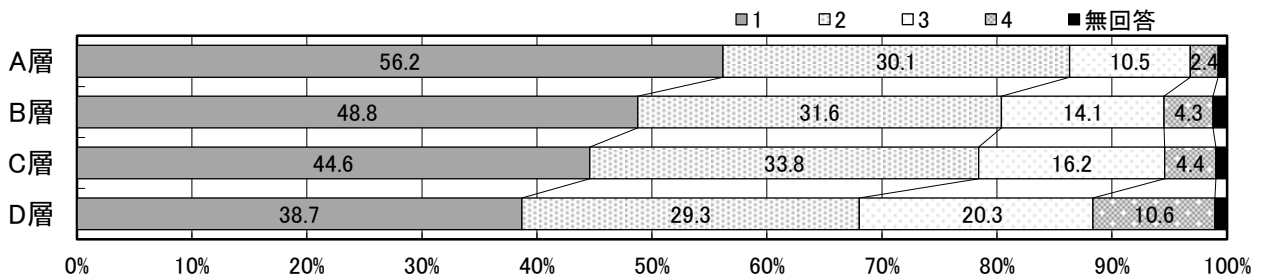


《中2におけるクロス集計結果》



○ 「授業で、自分の考えをノートに書くようにしている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。(中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

該当する質問事項6 「授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



② 震災の影響と関連する事項

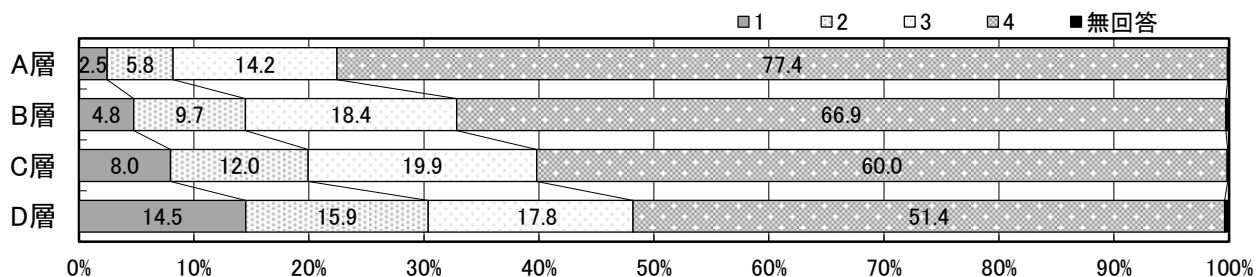
○ 家庭学習がやりにくくなったと回答している中2の割合はやや減少しているが、他の項目は前年度とほぼ変わり無く、依然として小5においては約2割、中2においては約1割の児童生徒が震災の影響を感じていると回答している。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
11 (小) 震災があったために、家庭学習がやりにくいですか (中) 震災があったために、家庭学習がやりにくくなりましたか	H28	18.2	1.5	9.7	-3.0
	H27	16.7		12.7	
	H26	18.6	-1.9	13.0	-0.3
12 突然震災を思い出し、授業に集中できないときがありますか	H28	17.3	1.1	5.9	0.3
	H27	16.2		5.6	
	H26	13.6	2.6	5.4	0.2
13 突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか	H28	22.0	0.0	9.9	0.6
	H27	22.0		9.3	
	H26	17.6	4.4	11.9	-2.6

◇小5における震災の影響と教科の平均正答率のクロス集計

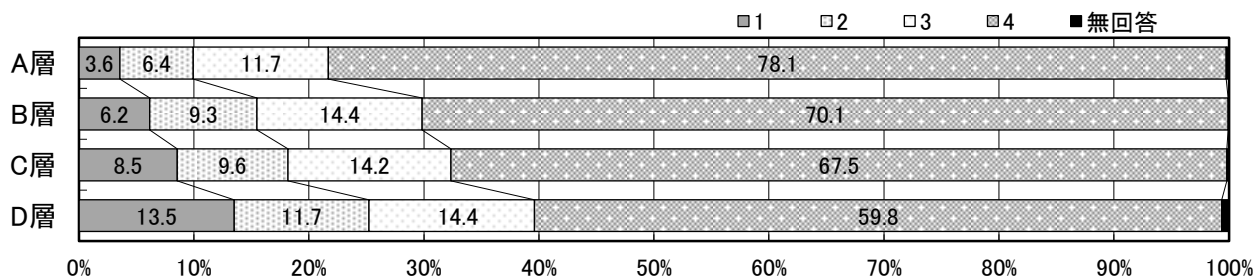
○ 「小：震災があったために、家庭学習がやりにくい（中：やりにくくなった）」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

該当する質問事項11 「震災があったために、家庭学習がやりにくいですか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



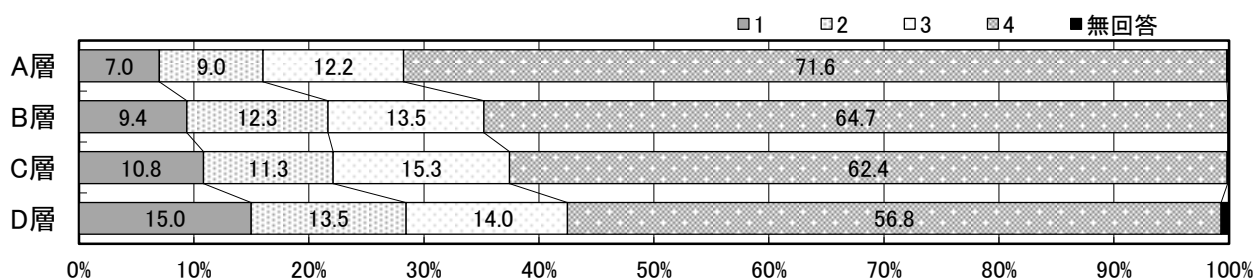
○ 「突然震災を思い出し、授業に集中できないときがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

該当する質問事項12 「突然震災を思い出し、授業に集中できないときがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



○ 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

該当する質問事項13 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



③ 学習の理解度と関連する事項

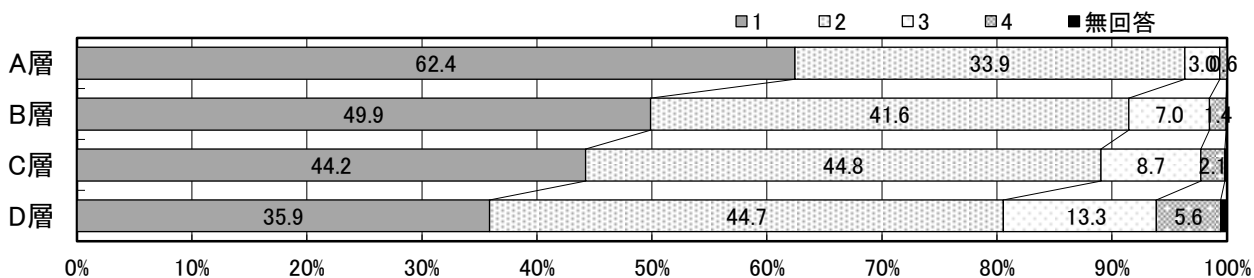
○ 小5では、国語、算数の授業の内容が分かるとしている割合はほぼ9割となっている。中2では、経年比較はプラスになっているものの、国語で約9割、数学、英語で約8割となっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
14 国語の授業の内容はよく分かりますか	H28	89.4	-0.8	86.3	0.8
	H27	90.2		85.5	
	H26	87.7	2.5	82.9	2.6
15 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	H28	88.6	-1.2	82.1	9.6
	H27	89.8		72.5	
	H26	89.0	0.8	71.8	0.7
16 英語の授業の内容はよく分かりますか	H28			76.0	4.0
	H27			72.0	
	H26			72.1	-0.1

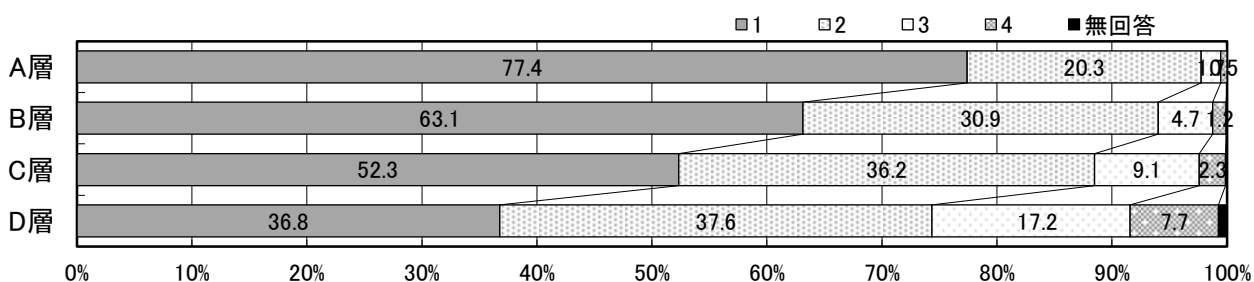
◇小5における学習の理解度と教科の平均正答率のクロス集計

○ 「授業がよく分かる」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。  
(中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

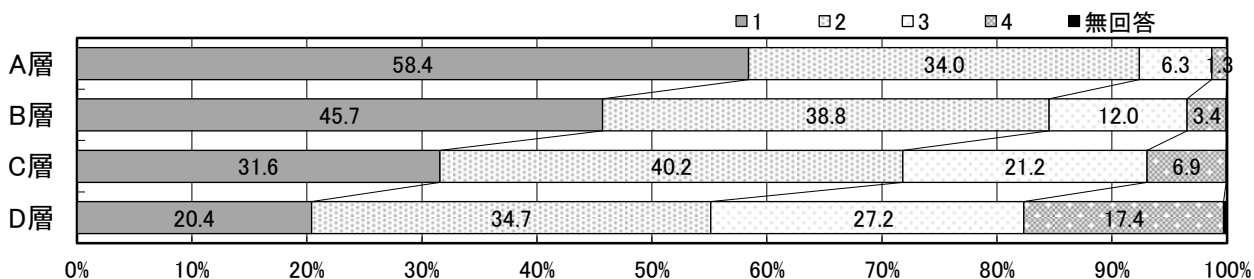
該当する質問事項14 「国語の授業の内容はよく分かりますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



該当する質問事項15 「算数の授業の内容はよく分かりますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



該当する質問事項16 「英語の授業の内容はよく分かりますか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果



④ 基本的な生活習慣と関連する事項

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ると回答している小5，中2の割合は，ともに約8割となっており，同じくらいの時刻に起きていますと回答している小5，中2の割合は約9割となっている。また，朝食を毎日食べると回答している小5，中2の割合は9割を超えているものの，小5の経年比較はマイナスとなっているが，中2は昨年度と同程度である。
- 平日に3時間以上，テレビやビデオ・DVDを見たり，聞いたりしている割合は，小5，中2ともに減少している。3時間以上テレビゲーム等をしている割合は，小5で約1割であり，経年比較はマイナスとなっている。中2は，2割を下回っているものの，経年比較はプラスとなっている。
- 携帯電話やスマートフォンの所持率が減少する一方，使用時間は増加している。

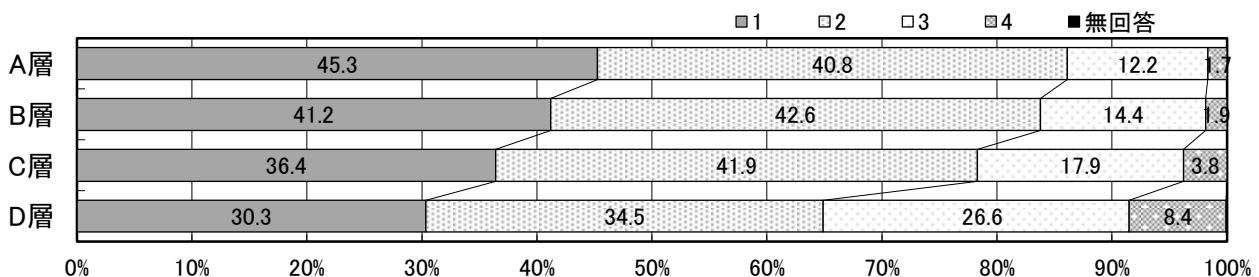
質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
17 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	H28	78.3	1.6	78.1	-0.5
	H27	76.7		78.6	
	H26	79.0	-2.3	77.2	1.4
18 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	H28	90.1	0.8	92.3	0.1
	H27	89.3		92.2	
	H26	89.3	0.0	92.3	-0.1
19 朝食を毎日食べていますか	H28	96.0	-0.3	94.5	0.1
	H27	96.3		94.4	
	H26	96.5	-0.2	94.5	-0.1
20 平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームを除く）→3時間以上と回答した割合	H28	24.5	-1.6	24.3	-1.6
	H27	26.1		25.9	
	H26	27.2	-1.1	25.4	0.5
21 平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか→3時間以上と回答した割合	H28	10.7	-0.1	17.1	0.8
	H27	10.8		16.3	
	H26	12.3	-1.5	18.0	-1.7
22 平日に、携帯電話やスマートフォンを勉強以外で使う時間はどのくらいですか →3時間以上と回答した割合	H28	4.8	1.5	15.2	1.6
	H27	3.3		13.6	
	H26	3.3	0.0	15.6	-2.0
23 平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか →1時間以上と回答した割合	H28	8.0	2.3	30.5	3.8
	H27	5.7		26.7	
	H26	5.4	0.3	31.1	-4.4
24 携帯電話やスマートフォンを所持している割合	H28	38.3	-9.5	58.0	-8.5
	H27	47.8		66.5	
	H26	53.8	-6.0	70.4	-3.9

※20から24については、数値が高いほど、また、比較の値が大きいくほど改善の必要性が高い。

◇小5における基本的な生活習慣と教科の平均正答率のクロス集計

○ 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」などと回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

該当する質問事項17 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果

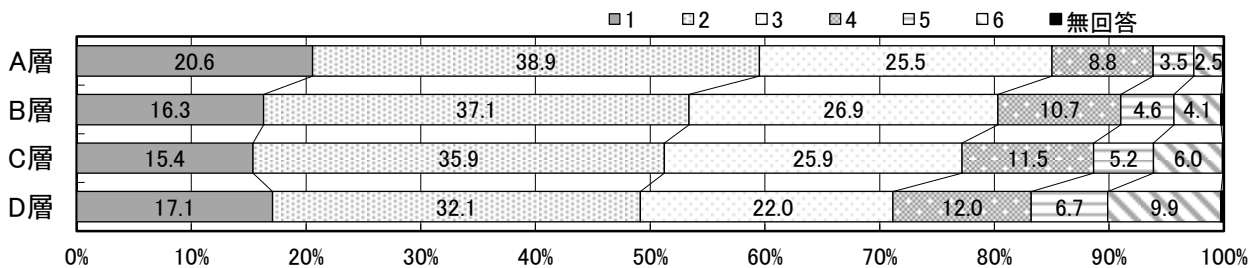




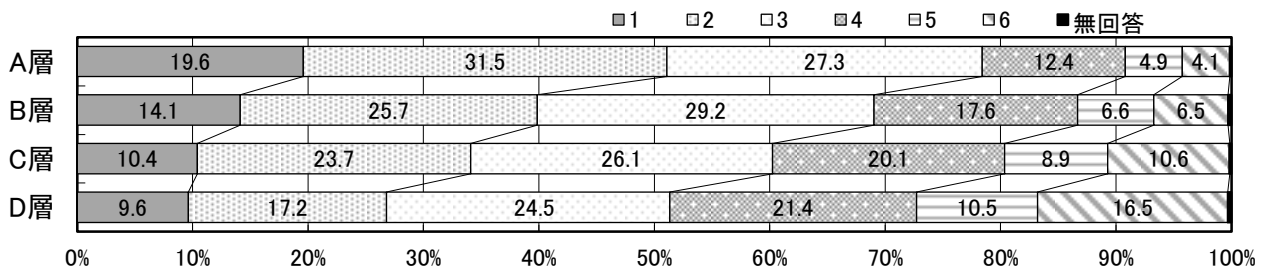
○ 「平日に、テレビゲーム等をする時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。  
 (中2においては、より顕著である)

該当する質問事項21 「平日に、1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果

《選択肢》 1: 全くしない      2: 1時間未満      3: 1時間以上2時間未満  
 4: 2時間以上3時間未満      5: 3時間以上4時間未満      6: 4時間以上



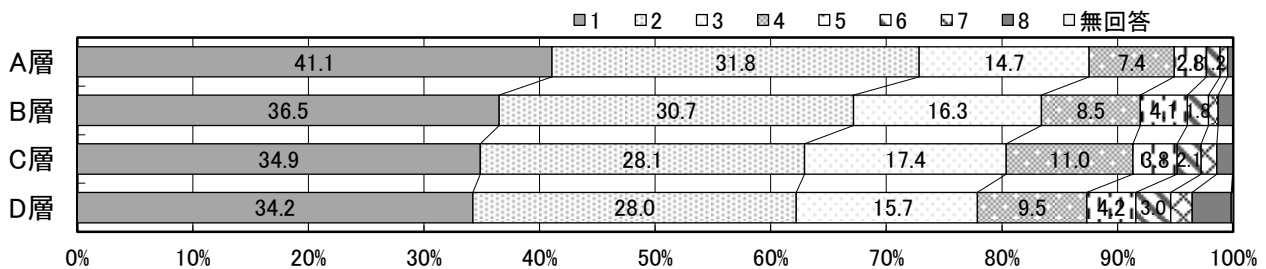
《中2におけるクロス集計結果》



○ 「平日に、携帯電話やスマートフォンを使う時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。  
 (中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

該当する質問事項22 「平日に、携帯電話やスマートフォンを勉強以外で使う時間はどれくらいですか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果

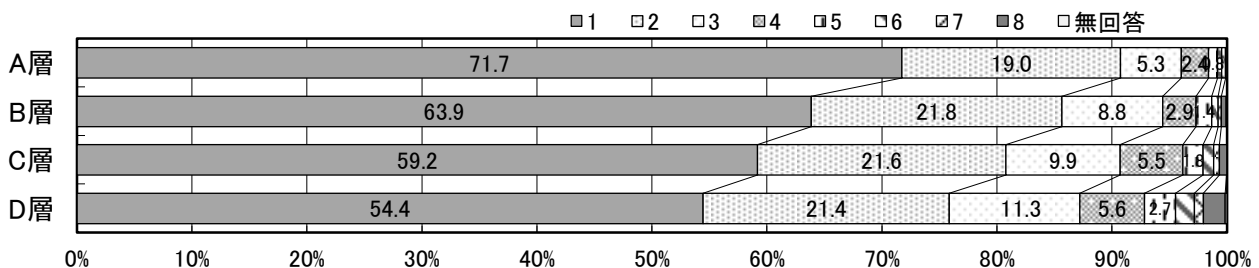
《選択肢》 1: 全く使わない      2: 30分未満      3: 30分以上1時間未満  
 4: 1時間以上2時間未満      5: 2時間以上3時間未満      6: 3時間以上4時間未満  
 7: 4時間以上5時間未満      8: 5時間以上



○ 「平日に、LINEなどの無料通信アプリを使う時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。  
 (中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

該当する質問事項23 「平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果

《選択肢》 1: 全く使わない      2: 30分未満      3: 30分以上1時間未満  
 4: 1時間以上2時間未満      5: 2時間以上3時間未満      6: 3時間以上4時間未満  
 7: 4時間以上5時間未満      8: 5時間以上



⑤ 自尊意識・規範意識と関連する事項

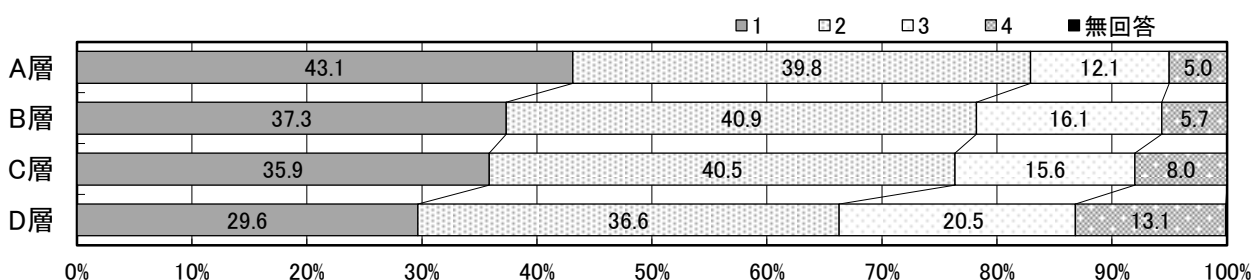
- 自分には、良いところがあると思っている割合は、小5、中2ともに27年度と比較して割合は高くなっているものの、小5で8割未満、中2は7割未満となっている。
- 学校のきまりを守っているとする割合は、小5、中2ともに9割を上回り、27年度と比較して割合は高くなっている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている割合は、小5、中2ともに9割を上回っているものの、27年度と比較して割合は下がっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
25 自分には、よいところがあると思いますか	H28	75.9	0.5	66.4	1.4
	H27	75.4		65.0	
	H26	72.7	2.7	63.0	2.0
26 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	H28	92.9	-0.7	94.0	0.4
	H27	93.6		93.6	
	H26	93.7	-0.1	93.6	0.0
27 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	H28	80.2	-1.8	72.0	2.3
	H27	82.0		69.7	
	H26	79.9	2.1	70.8	-1.1
28 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	H28	93.2	-0.5	93.7	0.2
	H27	93.7		93.5	
	H26	92.4	1.3	92.5	1.0
29 将来の夢や目標を持っていますか	H28	92.3	-0.3	75.0	-0.2
	H27	92.6		75.2	
	H26	90.2	2.4	72.6	2.6
30 学校のきまり（規則）を守っていますか	H28	92.9	0.7	94.3	0.2
	H27	92.2		94.1	
	H26	89.2	3.0	92.2	1.9
31 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	H28	95.3	-1.0	94.9	-0.1
	H27	96.3		95.0	
	H26	95.7	0.6	93.3	1.7

◇小5における自尊意識・規範意識と教科の平均正答率のクロス集計

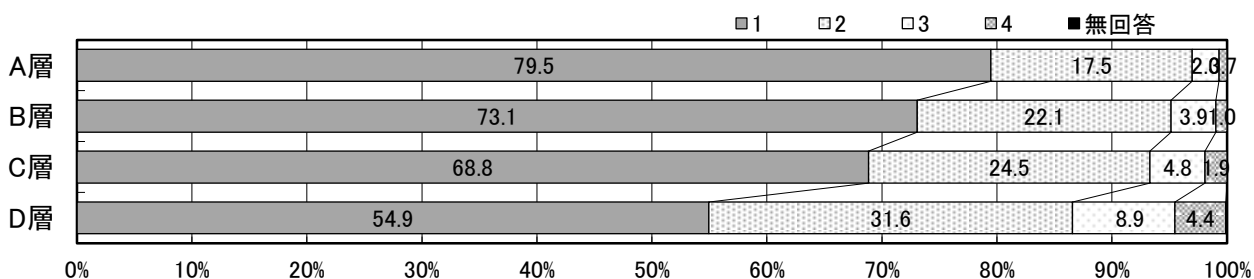
○ 「自分には、よいところがあると思う」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

該当する質問事項25 「自分には、よいところがあると思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



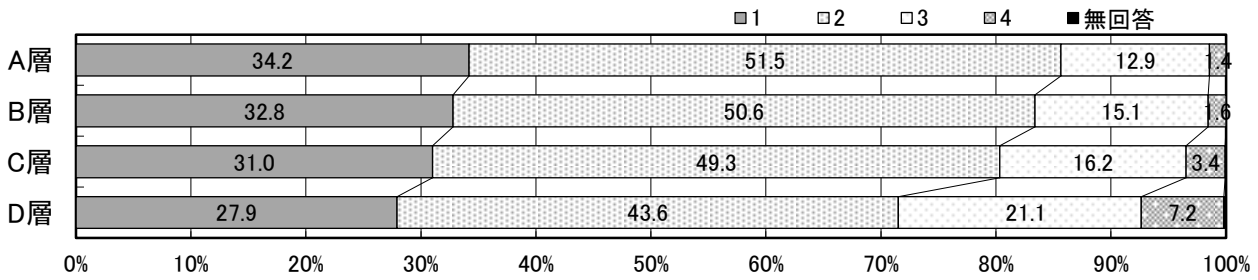
○ 「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。（中2においてもほぼ同様な傾向が見られる）

該当する質問事項26 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



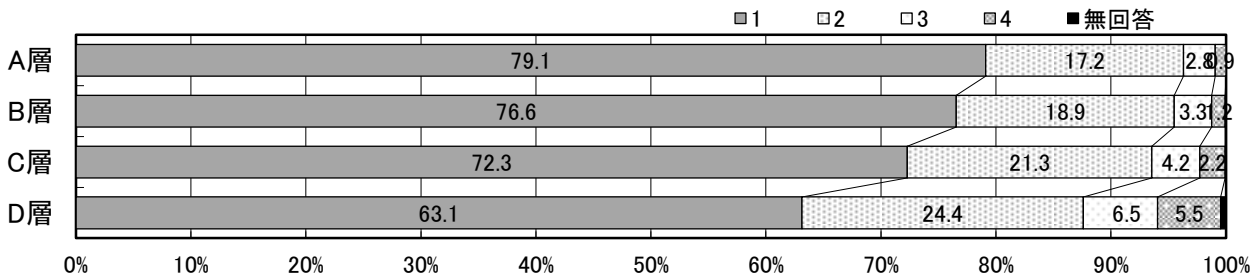
○ 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。(中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

該当する質問事項27 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



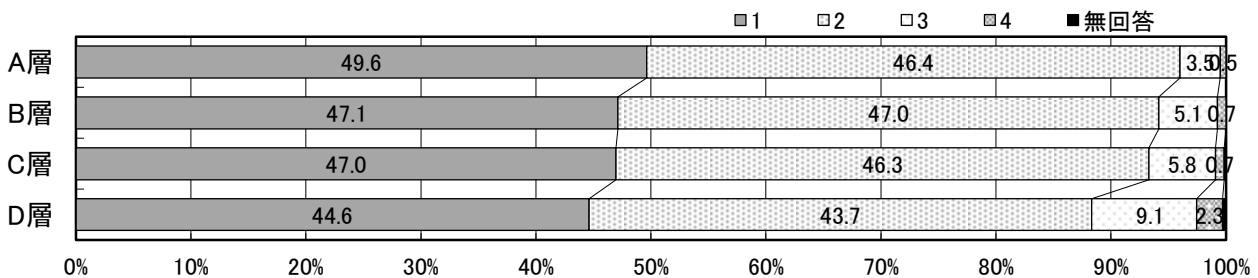
○ 「人の役に立つ人間になりたいと思っている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。(中2においてもほぼ同様な傾向が見られる)

該当する質問事項28 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果

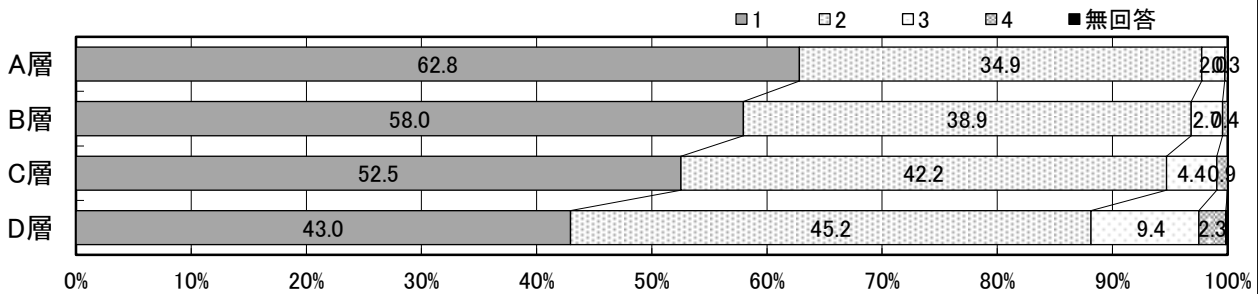


○ 「学校のきまり(規則)を守っている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。(中2においては、より顕著である)

該当する質問事項30 「学校のきまり(規則)を守っていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果



《中2におけるクロス集計結果》



(2) 学校質問紙調査の結果

① 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項

- 児童生徒に積極的に声を掛け、励ましている学校、一人一人に声を掛け、話をよく聴いている学校、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、伝えるなどしている学校の割合は、小5、中2ともに9割を超えている。
- 授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り入れている学校、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている学校の割合は、小5、中2ともに9割を超え、3年間で一番高い割合となっている。
- 家庭学習の習慣と充実を図る取組に関する回答は、中2の課題の与え方の共通理解に関する項目を除き、全て9割を超えている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
1 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか	H28	98.4	-0.8	99.3	-0.7
	H27	99.2		100.0	
	H26	98.9	0.3	97.2	2.8
2 児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか	H28	97.3	-0.8	98.6	-0.7
	H27	98.1		99.3	
	H26	96.0	2.1	97.9	1.4
3 学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、伝えるなど積極的に評価しましたか	H28	97.7	-0.4	95.7	-1.5
	H27	98.1		97.2	
	H26	95.6	2.5	92.3	4.9
4 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか	H28	99.6	0.0	97.9	4.9
	H27	99.6		93.0	
	H26	95.6	4.0	95.1	-2.1
5 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	H28	93.1	6.2	93.6	9.7
	H27	86.9		83.9	
	H26	85.0	1.9	79.0	4.9
6 前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	H28	93.9	-0.1	94.4	6.3
	H27	94.0		88.1	
	H26	87.9	6.1	87.4	0.7
7 前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国・算共通）	H28	92.4	4.1	77.4	8.1
	H27	88.3		69.3	
	H26	91.5	-3.2	67.9	1.4
8 前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	H28	93.5	0.2	97.2	2.8
	H27	93.3		94.4	
	H26	91.5	1.8	93.0	1.4
9 前年度までに、児童の家庭学習を促すような働きかけをしましたか（各教科共通）	H28	97.3	-0.4	95.1	1.4
	H27	97.7		93.7	
	H26	96.7	1.0	93.8	-0.1

② 震災の影響と関連する事項

- 震災前に比べ、児童生徒の家庭学習の時間の確保が難しくなっている学校の割合は、小5は1割に満たず、中2では1割台となっている。27年度と比較して割合は下がっている。
- 授業に集中して取り組めない児童生徒が多くなったと回答している学校の割合は、小5、中2とも1割を超えており、27年度と比較して割合は高くなっている。
- 気になる様子が見られる児童生徒の割合は、小5、中2ともに1割以下であり、27年度と比較して割合は下がっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
10 震災前に比べて、あなたの学校では児童生徒の家庭学習の時間の確保が難しくなっていますか	H28	8.4	-1.7	16.2	-1.3
	H27	10.1		17.5	
	H26	11.7	-1.6	21.0	-3.5
11 震災後、あなたの学校では授業に集中して取り組めない児童生徒が多くなったと思いますか	H28	10.6	0.3	10.6	0.8
	H27	10.3		9.8	
	H26	12.1	-1.8	14.7	-4.9
12 震災の影響（地震・津波・放射線）と思われる、気になる様子が見られる児童生徒の割合	H28	0.5	-0.7	0.8	-0.2
	H27	1.2		1.0	
	H26	0.7	0.5	0.5	0.5

質問事項12の内容「現在、震災の影響(地震・津波・放射線)と思われる、以下のような気になる様子が一つでもある生徒は何人いますか。」

- ① 災害のことを突然思い出して動揺する。 ② 災害を連想させる事柄や場面に出会うと、あわてて話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする。
- ③ 喜怒哀楽がなくなり、無表情になった。 ④ 些細な音でビクッとしたり、過敏に警戒するようになった。

### ③ 指導方法と関連する事項

- 習熟の程度に応じた指導に関する項目では、小5の算数で約5割、中2の数学と英語で約2割であり、低い状況である。
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小5が8割半ば、中2で9割半ばとなっている。一方、27年度と比較して、小5の割合の減少が大きい。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
13 国語の指導として、前年度までに書く習慣を付ける授業を行いましたか	H28	93.6	2.9	97.1	0.5
	H27	90.7		96.6	
	H26	89.4	1.3	97.2	-0.6
14 国語の指導として、前年度までに様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	H28	87.8	4.3	86.6	-0.1
	H27	83.5		86.7	
	H26	78.4	5.1	82.5	4.2
15 国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	H28	89.7	-1.3	94.4	2.8
	H27	91.0		91.6	
	H26	85.3	5.7	89.5	2.1
16 算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	H28	57.6	-6.4	27.5	3.0
	H27	64.0		24.5	
	H26	54.6	9.4	31.5	-7.0
17 算数・数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	H28	50.8	-4.6	21.8	5.0
	H27	55.4		16.8	
	H26	52.0	3.4	24.5	-7.7
18 算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	H28	72.1	2.8	73.2	6.1
	H27	69.3		67.1	
	H26	75.1	-5.8	68.5	-1.4
19 算数・数学の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	H28	96.9	-1.2	97.9	1.4
	H27	98.1		96.5	
	H26	98.5	-0.4	97.2	-0.7
20 英語の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	H28			23.9	4.3
	H27			19.6	
	H26		22.4	-2.8	
21 英語の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	H28			19.7	2.2
	H27			17.5	
	H26		20.3	-2.8	
22 英語の授業において、前年度に、英単語等の反復練習などをする指導を行い、基礎・基本を習得できるようにしましたか	H28			100.0	4.2
	H27			95.8	
	H26		94.4	1.4	
23 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか	H28	84.7	-5.6	94.3	-0.1
	H27	90.3		94.4	
	H26	83.9	6.4	94.4	0.0

### ④ 学力向上に向けた取組と関連する事項

- 学校図書館を活用した指導を計画的に行っている学校の割合は、小5、中2とも高くなっている。
- 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は、小5、中2とも8割を超えている。一方、27年度と比較して、中2の割合の減少が大きくなっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
24 前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか	H28	98.9	1.9	81.0	5.5
	H27	97.0		75.5	
	H26	96.7	0.3	72.0	3.5
25 前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	H28	85.1	-1.0	80.8	-5.2
	H27	86.1		86.0	
	H26	80.6	5.5	86.0	0.0
26 前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	H28	66.7	2.7	69.0	-3.0
	H27	64.0		72.0	
	H26	63.4	0.6	75.5	-3.5

## 5 質問紙調査結果の3年間の概況

### (1) 児童生徒質問紙

#### ○「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項

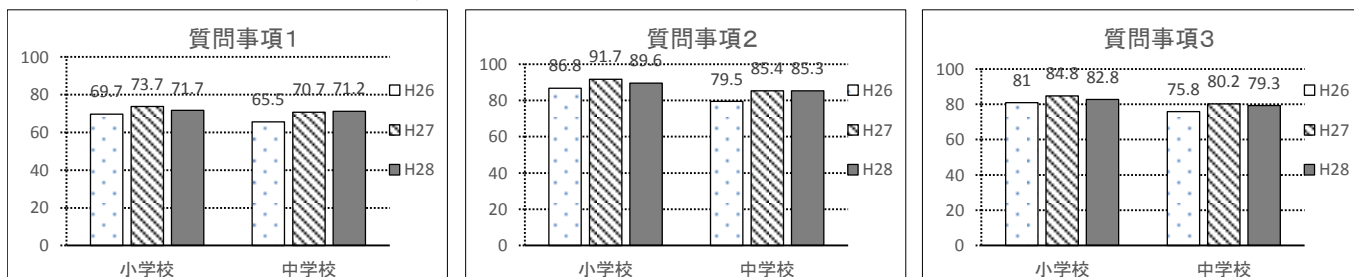
「学力向上に向けた5つの提言」は平成25年10月に策定し、全学校・全教員に配付し、全ての学校・教室での実践を働き掛けてきている。平成26年度、27年度、28年度の質問紙調査はそれぞれ提言の策定・配付から1年後、1年6か月後、2年6か月後に実施したものである。

《提言1》「どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること」

《提言2》「子供をほめること、認めること」

関連する質問事項は、「1 先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」、「2 先生はあなたの話を聞いてくれますか」、「3 先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」である。

平成27年度の調査は、平成26年度の調査から約6か月後と短い期間で実施したものであるが、質問事項1、2、3の全てにおいて、小5、中2ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。平成28年度の調査では、小5、中2の3つの質問事項全てについて平成27年度の割合と比べると若干減少しているものの、平成26年度の割合よりも高くなっている。

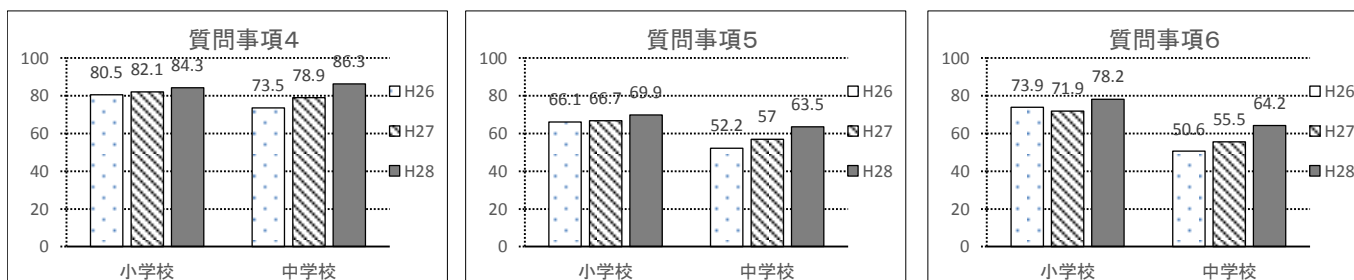


《提言3》「授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。」

《提言4》「自分の考えをノートにしっかり書かせること」

関連する質問事項は「4 授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか」、「5 授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」、「6 授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか」である。

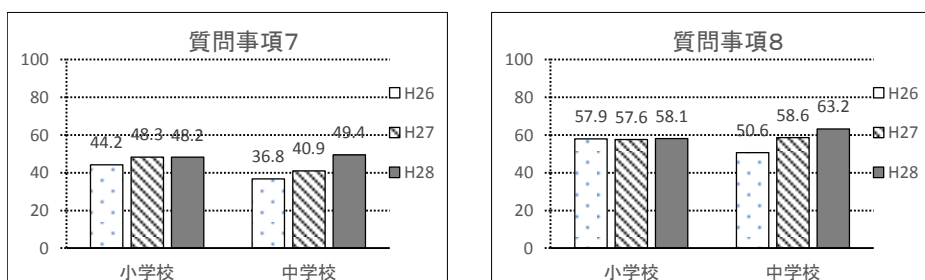
小5では、質問事項4、5について、年度を追うごとに肯定的な回答の割合が増え、平成28年度の割合が一番高くなっている。質問事項6については、平成27年度の割合がやや下がったものの、平成28年度の割合が一番高くなっている。中2では全ての質問事項について、肯定的な回答の割合が年度を追うごとに高くなり、28年度の割合が一番高くなっている。



《提言5》「家庭学習の時間を確保すること」

関連する質問事項は「7 家で学校の授業の予習をしていますか」、「8 家で学校の授業の復習をしていますか」である。

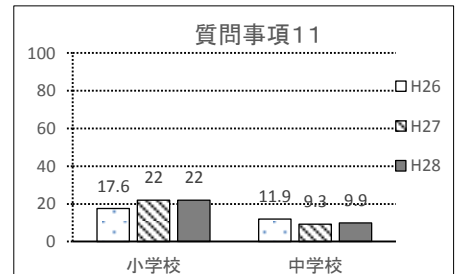
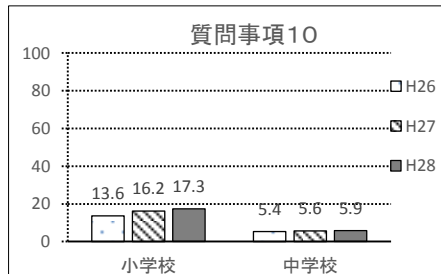
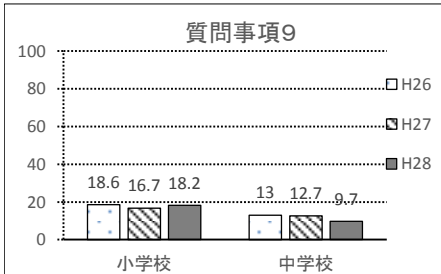
小5では、質問事項7、8について、肯定的な回答の割合は約5割から6割でほとんど変化は見られない。中2では、肯定的な回答の割合が年度を追うごとに高くなっている。



### ○「震災の影響」と関連する事項

関連する質問事項は「9 震災があったために、家庭学習がやりにくいですか」、「10 突然震災を思い出し、授業に集中できないときがありますか」、「11 突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」である。

小5では、質問事項9、10、11ともに、3年間で割合に変化はほとんど見られない。中2については、質問事項9で平成28年度の割合が若干下がった程度で、こちらも3年間で割合の変化はほとんど見られない。調査対象の児童生徒が異なっているにもかかわらず、震災の影響を感じている児童生徒が毎年、小5で約2割、中2で約1割存在している。

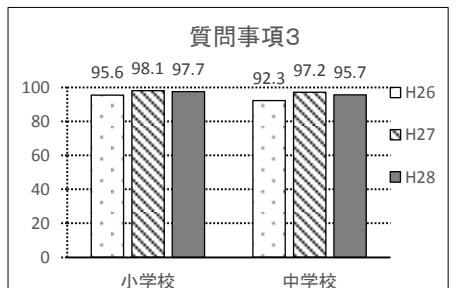
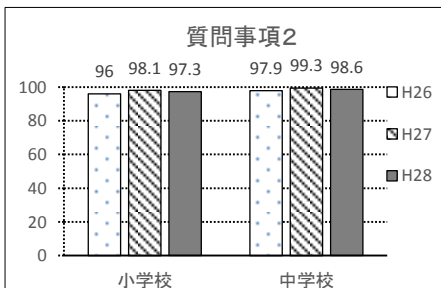
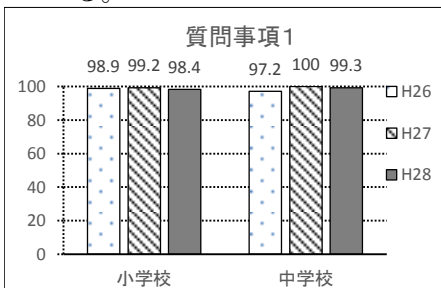


## (2) 学校質問紙

### ○「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項

《提言1》、《提言2》に関する調査結果関連する質問事項は「1 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましたか」、「2 児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか」、「3 児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか」である。

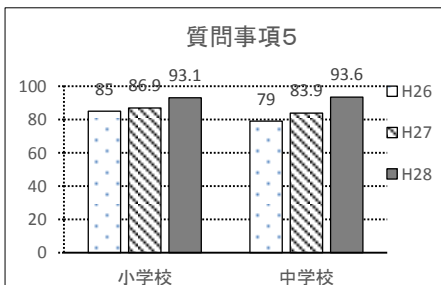
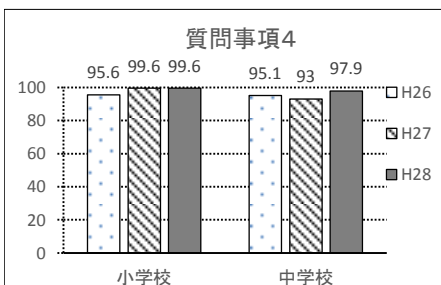
小5、中2の全ての質問事項で、平成28年度の割合が平成27年度よりわずかに低くなっているが、3年間を通して、肯定的な回答の割合にほとんど変化はなく、小5、中2ともに9割を超えている。



### 《提言3》、《提言4》と関連する調査結果

関連する質問事項は「4 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか」、「5 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか」である。

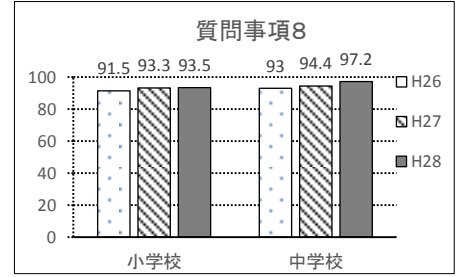
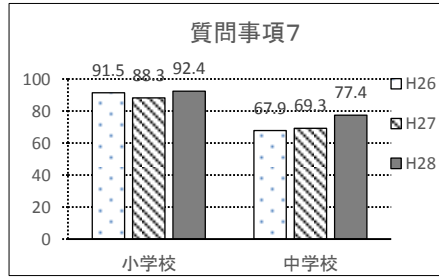
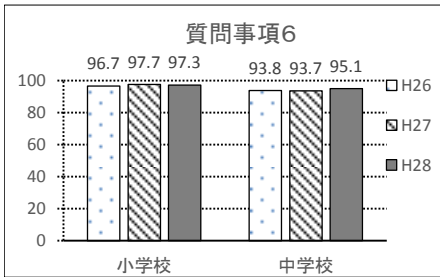
質問事項4については、小5、中2ともに3年間の変化はほとんど見られず9割を超えている。質問事項5については、小5、中2ともに、年度を追うごとに徐々に割合が高くなり、平成28年度の割合が9割を超え、一番高い割合となっている。質問事項5の、中2の割合の変化が顕著である。



《提言5》「家庭学習の時間を確保すること」と関連する調査結果

関連する質問事項は「6 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか」、「7 家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか」、「8 児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしましたか」である。

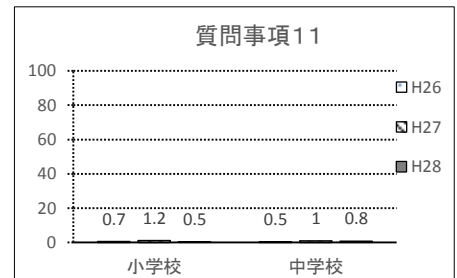
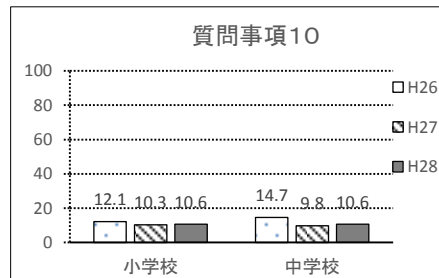
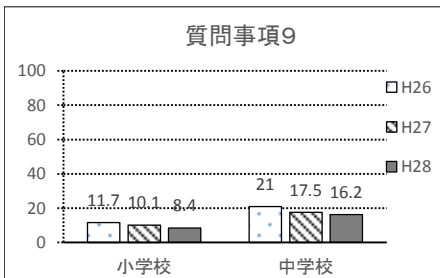
小5では、全ての質問事項について、3年間を通じてほぼ9割を超える高い割合である。中2では、質問事項6、8で、3年間を通じて9割を超え、高い割合となっている。質問事項7は、7割を超える程度ではあるが、3年間でその割合は徐々に高くなっている。



○「震災の影響」と関連する事項

関連する質問事項は「9 震災前に比べて、あなたの学校では児童生徒の家庭学習の時間の確保が難しくなったと思いますか」、「10 震災後、あなたの学校では授業に集中して取り組めない児童生徒が多くなったと思いますか」、「11 震災の影響と思われる、気になる様子が見られる児童生徒の割合」である。

小5では、質問事項9で割合が若干下がっているものの、全ての質問事項でほとんど変化は見られない。質問事項9、10、11ともに、3年間で割合に変化はほとんど見られない。中2についても、質問事項9で割合は下がってきているものの、全ての質問事項で変化はほとんど見られない。小5、中2ともに、約1割から1割半の児童生徒に影響が感じられるという結果である。





## 6 児童生徒質問紙調査結果と学校質問紙調査結果のかい離

- 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましていると回答した学校の割合は、ほぼ10割であるが、先生から声を掛けられたり、励まされたりしていると回答している児童生徒の割合は小5、中2ともに約7割でありかい離が見られる。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていると回答した学校の割合は9割を超えているが、授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると回答した児童生徒の割合は、6割台でありかい離が見られる。
- 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行っているという回答した学校の割合は9割を超えているが、国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていると回答した児童生徒は7割台でありかい離が見られる。

質問事項		小学校			中学校			
		小5	学校	かい離	中2	学校	かい離	
1	・先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか ・児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか	H28	71.7	98.4	-26.7	71.2	99.3	-28.1
		H27	73.7	99.2	-25.5	70.7	100.0	-29.3
		H26	69.7	98.9	-29.2	65.5	97.2	-31.7
2	・先生はあなたの話を聞いてくれますか ・児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聞く聴きましたか	H28	89.6	97.3	-7.7	85.3	98.6	-13.3
		H27	91.7	98.1	-6.4	85.4	99.3	-13.9
		H26	86.8	96.0	-9.2	79.5	97.9	-18.4
3	・先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか ・学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか	H28	82.8	97.7	-14.9	79.3	95.7	-16.4
		H27	84.8	98.1	-13.3	80.2	97.2	-17.0
		H26	81.0	95.6	-14.6	75.8	92.3	-16.5
4	・授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか	H28	84.3	99.6	-15.3	86.3	97.9	-11.6
		H27	82.1	99.6	-17.5	78.9	93.0	-14.1
		H26	80.5	95.6	-15.1	73.5	95.1	-21.6
5	・授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか ・授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	H28	69.9	93.1	-23.2	63.5	93.6	-30.1
		H27	66.7	86.9	-20.2	57.0	83.9	-26.9
		H26	66.1	85.0	-18.9	52.2	79.0	-26.8
6	・授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか ・児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	H28	82.3	96.6	-14.3	86.1	96.4	-10.3
		H27	82.3	95.5	-13.2	85.0	97.9	-12.9
		H26	81.5	92.6	-11.1	82.6	93.7	-11.1
7	・授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか ・学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	H28	81.0	95.8	-14.8	82.7	97.1	-14.4
		H27	84.5	94.4	-9.9	82.8	92.4	-9.6
		H26	82.4	92.0	-9.6	77.0	92.3	-15.3
8	・国語の授業で自分考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか ・国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	H28	75.4	93.6	-18.2	75.3	97.1	-21.8
		H27	75.4	90.7	-15.3	71.3	96.6	-25.3
		H26	71.3	89.4	-18.1	66.1	97.2	-31.1
9	・算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか ・算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	H28	71.6	72.1	-0.5	49.2	73.2	-24.0
		H27	74.4	69.3	5.1	45.6	67.1	-21.5
		H26	67.7	75.1	-7.4	40.7	68.5	-27.8
10	・家庭学習をする上で悩んでいることはありませんか。最も近いものを選んでください（括弧内に示した「家庭学習の方法が分からない」を選択した児童生徒を除く割合） ・前年度までに、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	H28	95.2 (4.8)	93.5	1.7	86.0 (14.0)	97.2	-11.2
		H27	95.8 (4.2)	93.3	2.5	85.8 (14.2)	94.4	-8.6
		H26	95.8 (4.2)	91.6	4.2	84.6 (15.4)	93.0	-8.4
11	・将来の夢や目標を持っていますか ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	H28	92.3	84.7	7.6	75.0	94.3	-19.3
		H27	92.6	90.3	2.3	75.2	94.4	-19.2
		H26	90.2	83.9	6.3	72.6	94.4	-21.8

## 7 今後の対応

児童生徒の学力向上には、全ての学校・全ての学級において、地道な取組を継続し続けることが欠かせない。これまで県教育委員会では、「検証改善委員会報告書」や「サポートプログラム事業報告書」等で、学力向上のためのポイントを示してきており、最近では、「学力向上に向けた5つの提言」や「算数・数学ステップ・アップ5」を策定・提示している。これらに示されている内容を各学校で確認し、全ての学級で着実に実践することを、これからも指導主事訪問や各種研修会、さらに校長会議や教頭会議等の機会を生かしながら確認し、さらなる徹底を図っていく。

### 全ての学校、教員に対して、授業及び学習集団づくりの基礎・基本の確認と実践充実を働き掛ける。

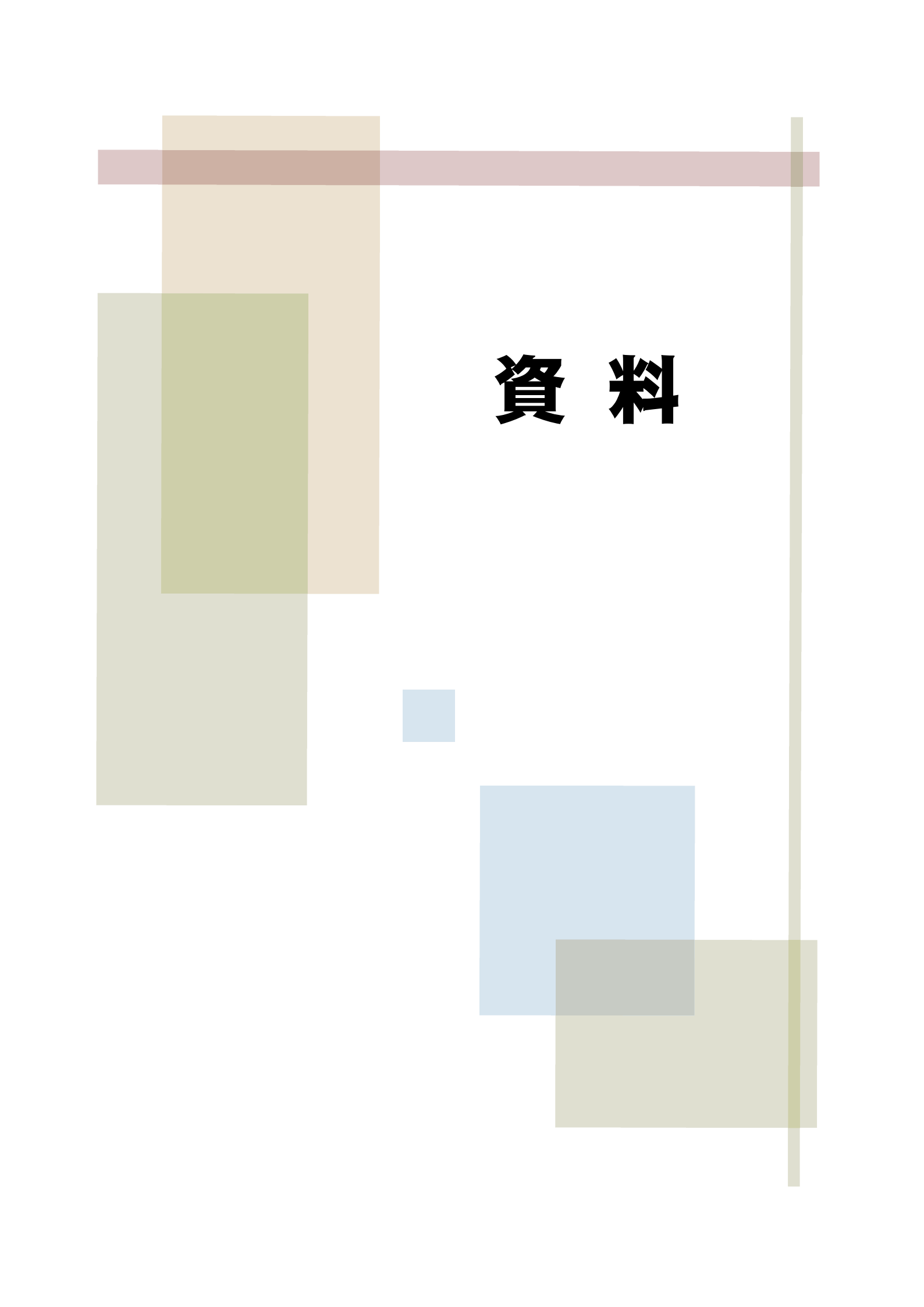
- 「授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されている」、「授業のおわりに振り返る活動が行われている」、「自分の考えをノートに書くようにしている」と回答している児童生徒の割合は、3年間で徐々に高くなっている。学校質問紙でも「めあて・ねらいを示している」の割合は3年間を通して9割を超えて高く、「振り返る活動を取り入れている」の割合は3年間で徐々に高くなっている。児童生徒の意識の割合と教員の意識の割合には、数値としての差は見られるが、学校及び教員の継続的な指導が児童生徒の意識に着実に反映してきていると考えられる。
- 「教科全体」の結果を見ると、平成28年度の小5の国語で期待値とのかい離が-7.0と大きくなっているが、その他の全ての教科、年度で期待値との有意差は見られない。中2では、年を追うごとにかい離が小さくなり、3年間での改善傾向も見られている。しかし、期待値とのかい離は、マイナスが多かったことを重く捉え、今後も日々の授業改善と指導の充実を継続して働き掛けていく。
- 平成28年度調査では、「先生から声を掛けられたり、励まされたりする」と感じている児童生徒は約7割、「話を聴いてくれる」、「良いところを認めてくれる」と感じている児童生徒は約8割から9割程度である。この割合は27年度調査より減少しているが、3年間、高い割合を維持しているのは、教員の関わり方が児童生徒の学習意欲や人間関係の形成等といった、学習の基盤づくりを左右するとの認識のもと、各学校、全ての学級で意識して実践してきた結果だと考えられる。しかし、未だ児童生徒の約2割程度が肯定的な回答をしていないことを重く受け止め、より具体的な実践を一層推進していく。

### 児童生徒の学習状況と心の状況を把握し、心のケアと学習環境の整備、生活習慣の形成を推進していく。

- 震災の影響に関する項目では、小5、中2ともに3年間の回答の割合にはほとんど変化は見られない。平成28年度の調査においても、小5の約2割、中2の約1割の児童生徒がいまだに影響を感じると回答している。今後も児童生徒の心の状況をきめ細かく把握しながら、継続して心のケアに努め、落ち着いて学習できる環境の整備を進めていく。
- 小5、中2ともにテレビ等の視聴時間は減少しており改善傾向が見られる一方で、携帯電話やスマートフォンを使う時間が増加傾向にある。家庭と協力しながら、携帯電話やスマートフォンの使い方も含めて、基本的な生活習慣、学習習慣の形成を一層図っていく。

### 市町村教育委員会と連携し、各学校に対して検証改善サイクルの一層の充実を図っていく。

- 本報告書で示された各教科における具体的な対策と全国学力・学習状況調査の検証改善委員会報告書を連動させながら、各学校が検証改善サイクルの充実を一層図っていくことができるよう促していく。
- 今後とも、市町村教育委員会と連携して学力向上に向けた具体的な取組を進めていく。



# 資料

平成25年10月16日

## 『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医・大学教授・地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子どもたちに対し、分かる・できる、分かる授業、できる授業、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子どもたちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

## 学力向上に向けた5つの提言

**1** どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

**2** 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

**3** 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

**4** 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

**5** 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。また、保護者には、子供に声を掛けたり子供を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになることを伝えましょう。

# すぐに役立つ

全ての教室で取り組む学力定着

## 算数・数学

## ステップ・アップ

# 5

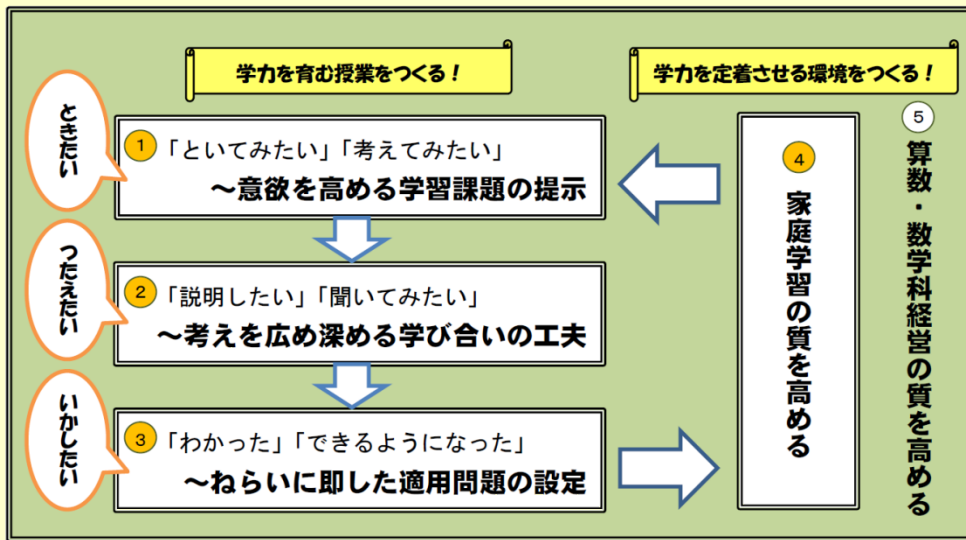
ファイブ

# 事例集

算数・数学の確かな学力を定着させるためには、児童生徒の実態を踏まえ、教員間で共有した具体的な手立てを、全ての教室で着実に実践することが大切です。宮城県学力向上対策協議会では、「学力向上に向けた5つの提言」の趣旨を踏まえ、特に算数・数学に焦点化した学力向上対策「算数・数学ステップ・アップ5」を策定し、実践化・自校化を働き掛けています。この資料は、各学校の実践の参考となるよう、先導的に取り組んでいる学校の事例を取りまとめたものです。

ぜひ、校種や教科にかかわらず、全ての先生方の授業改善に御活用願います。

### <学力向上対策>



### web フラッシュ

この事例集は「授業改善の入口」です。ホームページには他の実践例や関連資料もありますので参考にしてください。

詳しくは

宮城県 義務教育課

検索

平成28年7月

宮城県教育委員会

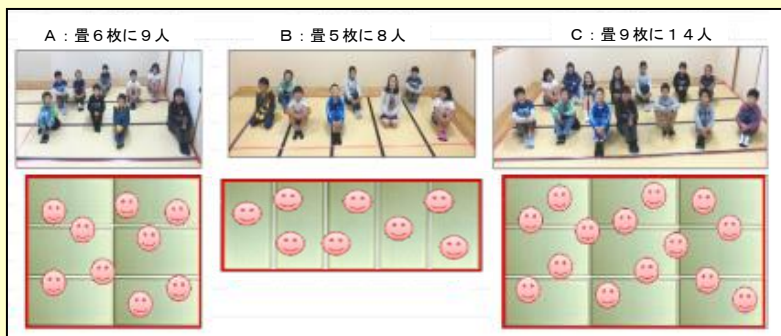
1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

【テーマ】実際に混み具合を体験し、意欲を引き出した取組（小学校）

単位量当たりの大きさは、児童にとってなかなか理解しづらいと言われている。そこで本事例では、畳の数が異なる部屋に座る体験を通して，“混み具合”を実感として捉えさせ、単元全体への意欲を高めるよう問題場面の提示を工夫した。

【実践の概要】 第5学年「単位量あたりの大きさ」（本時7／13）

＜提示した問題場面＞ 修学旅行の部屋割りから



Point

実際に体験させることで、提示された課題が**実感**を伴った「**考えてみたい**」ものとなります。

Point

条件がそろわない状況を整理して提示することで、問題解決の方向が明確になります。

○本時の課題

たたみの枚数も人数も違う3つの部屋について、混んでいる順番を調べよう。

【テーマ】ICT を活用し日常の生活場面を捉えさせる問題提示の工夫（小学校）

日常生活の中では、目的により関数の考え方を活用して判断することが必要とされる場面がある。本時では、遊園地の乗り物券を買う場面を想定して学習を進めた。

問題を提示する前に、遊園地の様子を映し出し、児童を問題場面の中に引き込んだ。このことにより、「乗り物に乗る回数」と「料金」の関係について、児童に問いを出させ、その反応を生かして課題を設定することで、問題解決への意欲を高めた。

Point

問題場面に全員を引き込んだことで、「**といてみたい**」という意欲が高まり、問題解決的な学習活動が始まります。

【実践の概要】 第4学年「変わり方しらべ」（本時5／6）

とく子さんは遊園地に遊びに来ました。

— チケット料金表 —	
・ 乗り物1回券	250円
・ 乗り放題券	2800円



Point

電子黒板で遊園地での問題場면을提示

ICT 機器の活用により、問題場면을視覚的に短時間で理解させることができます。

○本時の課題

乗り物に乗る回数と料金の関係を調べて、とく子さんにアドバイスしよう。

web フラッシュα

ミックスジュースをつくる場面設定で小数のたし算の必然性をもたせる取組や、輪投げゲームから円の性質を見付ける学習活動など、生活場面を取り入れることで知的好奇心を高め、解きたくなる工夫した事例が他にもみられます。既習事項との違いに着目させて問題解決へ見通しをもたせたり、**児童の言葉を引き出して課題を焦点化**したりするなど、「といてみたい」「考えてみたい」という問題解決への意欲を高めることが大切です。

【参考】



「MIYAGI Style」は、県教育委員会による教科指導におけるICT活用の提案です。



1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

【テーマ】多様な考え方を引き出し、学び合う学習をすることができる課題の工夫（中学校）

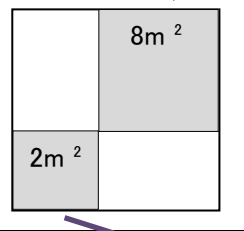
【課題のポイント】

既習事項を活用して、様々な解決方法を見出すことができる課題を設定した。

(例) 第3学年「根号を含む式の加減」(本時1/2)

学習課題：(平方根の加法について確認する学習活動)

右の図のような正方形の土地があります。この土地の中に図のように面積が $8\text{m}^2$ と $2\text{m}^2$ の正方形の花壇をつくりました。もとの正方形の土地の1辺の長さを求めましょう。



**Point**  
日常生活からイメージしやすい花壇の面積を取り上げることで、解決への意欲を高めています。

**Point**  
教科書の問題から数値を変えるなど、多様な考えが引き出せるような工夫も有効です。

**Point**  
既習事項を活用できないか促すことで、多様な解決方法に気付かせることができます。

I 面積を利用した考え方

花壇ではない長方形の面積は、 $\sqrt{8} \times \sqrt{2} = \sqrt{16} = 4$ であるから、

もとの正方形の面積は $18$ となる。よって1辺の長さは、 $\sqrt{18} = 3\sqrt{2}$

II 図を利用した考え方

面積 $8$ の正方形を4等分すれば、正方形の面積と1辺の長さの関係から、

もとの正方形の1辺の長さは $\sqrt{2}$ の3つ分とわかる。したがって、 $\sqrt{2} \times 3 = 3\sqrt{2}$

III 分配法則を利用した考え方

$$\sqrt{8} + \sqrt{2} = 2\sqrt{2} + \sqrt{2} = (2+1)\sqrt{2} = 3\sqrt{2}$$

面積は利用できないかな

図に補助線を入れてみるとどうかな



【テーマ】生徒の「本時の振り返り」を、次時のめあてや課題につなげる取組（中学校）

【実践の概要】

○終末で行う「本時の振り返り」において、本時のめあてについて言語化（文章化）したものを次時の課題に生かすことに、全校で取り組んだ。

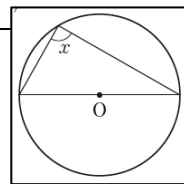
**Point**  
本時の振り返りを次時に活用することで、次時の課題の必然性につながります。

本時のめあての達成度 (*o*)	1	2	3	4	5	!(^^)!
今日の学習で、こんな解き方もできるのではないだろうか。						
ここまで分かったけれど、ここから先が分からない。						
ここがなぜこうなるのか分からない						
組						
番						
氏名						

<毎時間配布しているミニプリント>

【次時の学習課題に生かした事例】

① 証明問題で、授業で示さなかった方法に気づき、「この方法でもよいのか」と記入してきた。	② 三平方の定理の導入で、面積の関係(三平方の定理)に気付く生徒がおり、そのことを記入してきた。	③ 円周角の定理を学習した後、自主的に練習問題に取り組む中で、次の問題ができなかったという内容が書かれていた。
○ 「この前の時間の証明を、このように考えた人がいるが、この方法はどうか。」と全体へ投げ掛けすることで、別な考え方に気付かせ、前時の内容の理解深化に役立った。	○ 「前の時間に、この関係に気付いた人がいます。たまたまかな、それともいつでもいえるかな。」と投げ掛け、文字を用いた証明の必要性に結び付け、三平方の定理の証明につなげた。	○ 「この問題に取り組んで、困っている人がいるけど、どうか。」と投げ掛け、個人やペアで考えさせた後、直径と円周角の定理の学習につなげた。



web フラッシュ

デジタル教科書のシミュレーションや動画により視覚に訴えたり、実際の立体図形を操作したりするなど、進んで考えたいような工夫が他にもみられました。

中学生の発達の段階から、教科書以外の本で見つけた問題や古くからある和算などを導入段階に取り入れることも、**数学の世界への関心を高めることにつながります。**

【参考】



平成26年度検証改善委員会報告書の「確かな学力への入口」でも理論と実際を解説しています。

2 「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫

【テーマ】児童の考えをつなぎ、練り合いを深めた取組（小学校）

自分の考えを書いたり話したりして人に伝えることで、自分の考えたことが頭の中で整理され深まっていく。また、考えを伝え合うことを通して、集団の考えも深まっていく。本事例では、個人の考えや集団の考え方を深める工夫として、ペアやクラス全体での伝え合いの場を取り入れた。

【実践の概要】 第6学年「順序よく整理して調べよう」（本時4／6）

① 類推的思考を働かせて自力解決

- 前時の想起
- 既習事項の活用（算数コーナー）



算数コーナー



Point

自力解決に必要な情報を準備し、活動の状況に合わせて活用させることが大切です。

② ペア学習で伝え合い

- 自分の考えのよさの確認
- 友達のよりよい考えの学び



Point

ペア学習の目的を事前に確認して活動を始めましょう。

③ クラス全体での伝え合い

- 友達のよい考えを自分のものに
- 共通点、相違点、着想の共有化
- ※ペアで納得しない児童もここで納得

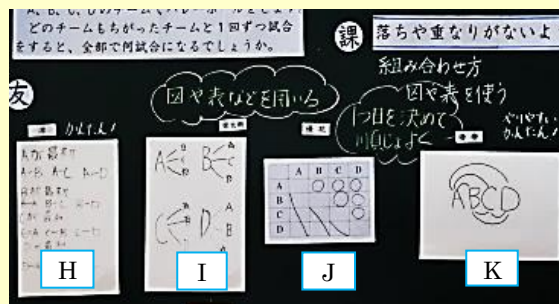
- C 私は樹形図を書いたが、K君の考えが線の数で決まるので簡単だ。
- C I君と同じ樹形図で求めたが、K君の考えは、ABCDを線で結ぶだけだったので簡単だ。
- C K君の考えは、重なりを消さなくていいから分かりやすい。
- C 私は表を使って求めたけど、Jさんは表を使って分かりやすく求めていたのでよいと思う。

【本時の振り返り】から

- C 友達の意見を聞いて分かるようになったのでよかった。
- C 図を使うと分かりやすく求められると思いました。
- C 最初あまり分からなかったけど、みんなの考えを聞いてどうやればいいのか分かったからよかった。

【次時の課題】

明日の5チーム対抗親子バレーボール大会の、試合の計画を立てよう。



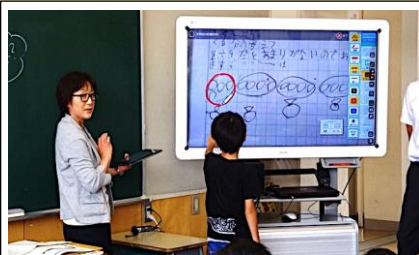
Point

聴き手に分かるよう、根拠を添えて話す習慣を付けましょう。

【テーマ】児童のノートをICTにより共有することで考えを広げる取組（小学校）

課題解決するための思考の場としてノートを活用している。自力解決で自分の考えをノートに書くことで整理し、思考の跡が残るようにした。また、考え方に沿った意図的な順序でICT機器を活用して児童のノートを提示し、考えを全体で共有できるようにした。

【実践の概要】



電子黒板に映したノートで考えを説明する児童

考えを話し合う場面では数名の児童のノートを電子黒板に映し、比較したり、全体で共有したりする活動を取り入れた。友達のノートを見ることで、自分と同じ考えや違いに気付かせることができた。

Point

ICTにより、ノートをそのまま見せることができるため、自分の思考の流れを説明したり、友達の思考をたどって考えを広げたりする活動が簡単に実現できます。

Point

対話的な学びを実現するためにも、先生だけでなく意図的にICTを使わせましょう。

web フラッシュα

図や式を画用紙にまとめて説明させたり、ノートに書いたことをタブレット端末で撮影し、集団解決の場面で大型モニタに映して説明させたりするなど、効果的に考えを伝えさせるための工夫をしている実践例が多く見られます。学び合いの場面では話し合いの目的を児童生徒と共有し、発言を引き出す手立てを講しながら解決に向かうことが大切です。



2 「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫

【テーマ】主体的な学習活動を促す学習課題を設定し、学習過程に学び合いを取り入れた取組（中学校）

【実践の概要】 第2学年「平行と合同」（導入段階）

〔めあて〕 多角形の角の和の求め方をいろいろな方法で考えてみよう。

**とらえる**


- 本時で使う既習事項の確認  
三角形の角の和は $180^\circ$   
四角形の角の和は $360^\circ$
- 目標の確認

**考える**

- 【問題①】を考える  
**五角形のすべての角の和の求め方を考えよう**

<多様な考えに気付く>

- 三角形に分ける
- 三角形と四角形に分ける
- 図形内部に点を取る
- 辺上に点を取る
- その他



- 考えを活用し、六角形、七角形の角の和を求める

**深め・広げる**

- 【問題②】を考える  
個 → 班（4人） → 全体

**まとめる**

- 学び合いで学習したことを確認する
- 次時への見通しをもたせ、つなげる

**Point**

基本的な考えを応用し、少し手応えのある問題を設定しています。友達の考え方が気付きにつながり、話し合いの中で解決できます。

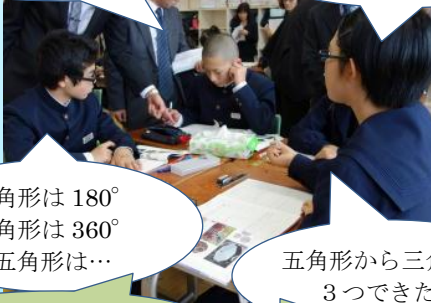
- 【問題②】を考える  
**三十二角形のすべての角の和を求めよう**

描かなくてもできるかも

頂点をつなぐと…

いくつ三角形ができるかな

図が描けないなあ



三角形は $180^\circ$   
四角形は $360^\circ$   
五角形は…

五角形から三角形が3つできたよ

規則性がありそうだ

三角形の個数さえ分かれば

※単元の導入段階のため「内角」という用語は使用せず。

**Point**

学び合いの場面では、必ず自力解決を設定し、一人一人を課題に向き合わせます。個人で解決に至らなくても、**集団解決で全員がゴールまで行けることを目指しましょう。**

web プラスα

学び合いの目的を校内で確認し、小学校までの学習の上に立って、生徒自身が主体的な学び合いになるようにしましょう。多様な考えが出るような課題設定が、授業を活性化します。

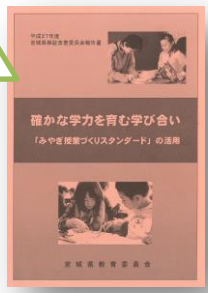
中学生という発達段階から、学び合いにより新しい視点を得たり、合理的・論理的な思考を身に付けたりすることのよさを感じさせるとともに、この後の生活や他教科等の学習場面でも生かせるよう、指導者が見通しをもって指導することも大切です。

【参考】



電子黒板アプリ「miyagi Touch」とタブレット端末の組合せで、学び合いを活性化してみましょう。

平成27年度検証改善委員会報告書の「**確かな学力を育む学び合い**」でも理論と実際を解説しています。



3 「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定

【テーマ】適用問題の充実により理解を深める工夫（小学校）

【実践1】「ときたい」と思わせる問題場を設定した適用問題の工夫

(第6学年・図を使って考える)  
この箱のお菓子を、Aさんは1人で15日、Bさんは10日で食べきります。AさんとBさんが2人で一緒に食べるとすると、この箱のお菓子は何日でなくなるでしょうか。

(第6学年・速さ)  
野ウサギ（1分間に1300m）、ライオン（時速58km）、ウサインボルト（100mを9秒58）を速い順に並べよう。

(第6学年・分数のかけ算)  
1 dLで  $\frac{1}{2}$  m<sup>2</sup>の壁をぬれるペンキがあります。でも、このペンキをこぼしてしまい、 $\frac{3}{4}$  dLになりました。これでぬれる壁の面積を求めましょう。

**Point**  
単に数字を入れ替えるのではなく、本時に学習した内容を活用する問題を用意しましょう。

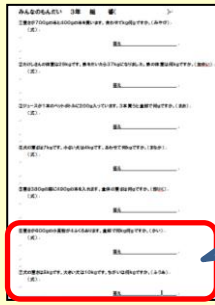
【実践2】自作の問題づくりで理解を深めた取組

適用問題に取り組んだ後に、自作問題に取り組ませている。自作問題は、ICTを活用してテレビに映したり、読み上げたり、拡大版を書かせたりして紹介した。



←自作問題を学級全体に紹介します。

自作問題を集めてプリントにし、まとめに活用します。 →



**Point**  
学習した内容の理解を確かにするには、問題をつくらせることも効果があります。

⑥重さが800gの小麦粉が4ふくらあります。全部で何kg何gですか。  
(式) \_\_\_\_\_  
答え \_\_\_\_\_

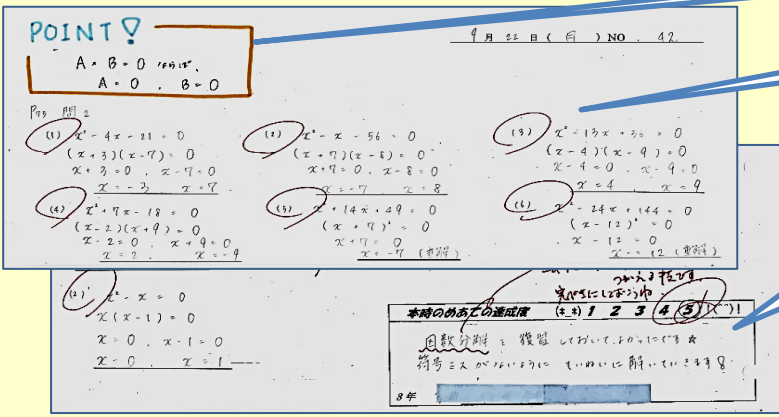
⑦犬の重さは5kgです。大きい犬は10kgです。ちがいは何kgですか。  
(式) \_\_\_\_\_  
答え \_\_\_\_\_

【テーマ】「振り返る活動」を設定し、学習のめあてを達成できたことを実感させる取組（中学校）

ノート等に振り返りコーナーを設定するなど、「振り返る活動」を意図的に設定し、本時のめあてに照らして学習した内容を振り返らせ、めあての達成が実感できるよう取り組んでいる。

★本校の「振り返る活動」の流れ★

- ①本時のポイントを自分なりにまとめる。
- ②適用問題として教科書の問いを行う。
- ③適用問題の答え合わせを行い、本時のめあての達成度の自己評価とことばによる振り返りを行う。



**Point**  
ねらいに立ち返って振り返りを行う形を、他の教科においても継続して取り組むことが大切です。

web フラッシュ

本時の学習内容を活用することで理解を深めたり、個の振り返りをまとめて生かしたりする取組が見られました。  
まとめや適用問題に取り組むことが、本時の学習内容の確実な定着につながります。一人一人に目を向け、「わかった」という実感をもたせましょう。また、習熟を図る場面を位置付けるなど、「学習の量の確保」についても意識して取り組みましょう。

【参考】



適用問題として、「みやぎ単元問題ライブラリー」も、ぜひ活用してみましょう。



4 家庭学習の質を高める

【テーマ】「振り返りカード」を活用し、児童の主体性と意欲を引き出す取組（小学校）

1週間単位の「振り返りカード」を導入し、週末に保護者や担任から励ましのコメントをもらうことで、子供たちが生き生きと主体的に家庭学習に取り組むとともに、家庭学習に対する保護者の関心も高まっている。

1週間の学習の計画を立てて、計画的に学習する習慣をつけましょう。

①週末に1週間の学習の反省を生かした計画を立てます。  
②毎日、その日の学習の評価をして先生に提出します。  
③週末に計画表を家の人に見せて、家の人から一言書いてもらいます。(印も可)  
(◎…よくできた ○…できた △…あまりできなかった ×…できなかった)

日	曜日	自主勉強の計画	宿題	本読み	時間	評価	担任印
17	月	漢字(六年生のむずかしい漢字)	◎	◎	65	◎	◎
18	火	算数(拡大図の復習)	◎	△	50	○	◎
19	水	理科(てこのはたらきの復習)	◎	○	60	◎	◎
20	木	算数(等しい比の性質の復習)	◎	×	45	○	◎
21	金	理科(電気と私たちのくらしの復習)	◎	○	65	○	◎
22	土	漢字(五年生の復習)	◎	○	55	◎	◎
23	日	算数(実合の復習)	◎	◎	60	◎	◎

自分の反省・次がんばることなど  
残り1週間だけど、今までの学習でわからなかったところや、難しく感じたところなどを、しっかり復習する。

家の人から  
いよいよラスト1週間になったね。復習をしっかりして、学校へ行ってほしい。成績が伸びてくれるといいね。(母)

先生から  
残り1週間だけど、今までの学習でわからなかったところや、難しく感じたところなどを、しっかり復習する。

14日 社会 予習 [韓国について調べる]

自分の反省・次がんばることなど  
水・木曜日の学習時間が6年生の目標時間の60分より下回っていたので、来週からは、60分以上できるように心がける。今週やった新しい漢字は、熟語文章が少ししか書けなかった。工夫して目標の60分以上をクリア出来るようにがんばろう!

家の人から  
習い事で自主勉強の時間が短くなってしまけれど、時間のやりくり工夫して目標の60分以上をクリア出来るようにがんばろう!

先生から  
振り返りカードは、次の目標を決めかねるようになり、家で勉強の習慣が定着するようになり、漢字は、熟語調べをして、(1)程度は、熟語調べをして、がんばって下さい。

日曜日はたくさん勉強しました。つかれたけど、スッキリしました。来週もがんばります!

日曜日は、久しぶりに自発的に長時間勉強に取り組みました。土曜日は、友達と二人でシルバースタマンド習いました。地図を見たり、人に聞いていりながら、たまたま達成感大きかったです。

55号校でもいろいろなことで進んで取り組めるようになってきています。確実に成長している姿があり、うれしい限りです。日曜日にがんばれたのは、目標をもって取り組めたからですね。がんばって下さい。

**Point**  
継続した振り返りと保護者や担任からの励ましが学習習慣を確かなものにします。

【テーマ】授業ノートと一体化した予習・復習の取組（中学校）

1時間の授業をノート見開き1ページとし、その余白スペースを予習・復習に充てることに全校で取り組んでいる。一体化したノート作りにより授業と家庭学習を意図的に関連付けながら、授業と家庭学習の質の向上を図った。

2点 直立方程式とグラフの関係を調べ、問題を解こう

①傾き: 2, 切片: 4  
 $y = 2x + 4$

②傾き: 1, 切片: -1  
 $y = x - 1$

$\begin{cases} y = 2x + 4 \\ y = x - 1 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} y = 2x + 4 \\ y = x - 1 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} y = 2x + 4 \\ 0 = -x + 5 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} x = 5 \\ y = 14 \end{cases}$

③傾き: 2, 切片: -1  
 $y = 2x - 1$

④傾き: 1, 切片: 2  
 $y = x + 2$

$\begin{cases} y = 2x - 1 \\ y = x + 2 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} y = 2x - 1 \\ y = x + 2 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} y = 2x - 1 \\ 0 = -x + 3 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} x = 3 \\ y = 5 \end{cases}$

2) 直立方程式を解き、交点・傾きを求めよう

①傾き: 3, 切片: 3  
 $y = 3x + 3$

②傾き: 2, 切片: -1  
 $y = 2x - 1$

$\begin{cases} y = 3x + 3 \\ y = 2x - 1 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} y = 3x + 3 \\ y = 2x - 1 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} y = 3x + 3 \\ 0 = -x + 4 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} x = 4 \\ y = 15 \end{cases}$

③傾き: 2, 切片: 1  
 $y = 2x + 1$

④傾き: 1, 切片: 2  
 $y = x + 2$

$\begin{cases} y = 2x + 1 \\ y = x + 2 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} y = 2x + 1 \\ y = x + 2 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} y = 2x + 1 \\ 0 = -x + 1 \end{cases} \rightarrow \begin{cases} x = 1 \\ y = 3 \end{cases}$

お2交点 (4, 15), (1, 3)

直立方程式の解 → 2つの式の交点  
傾きは、直立方程式の解が2=2, 1=1の場合、グラフの交点 (2, 2) になる。

長方形 ABCD の辺 AB を延長し、辺 BC を通り D を中心に半円を描く。この半円の半径を r とし、面積を S とする。△APD の面積が半円の面積と等しいとき、r の値を求めよ。

面積は等しいか? 確認して変わらなければ、半円を描く。

半径は r とする。△APD の面積は、底辺 AD の長さを r とし、高さを r とする。△APD の面積は、 $\frac{1}{2} \times r \times r = \frac{1}{2} r^2$  である。

半円の面積は、 $\frac{1}{2} \pi r^2$  である。

$\frac{1}{2} r^2 = \frac{1}{2} \pi r^2 \rightarrow r^2 = \pi r^2 \rightarrow r = \sqrt{\pi}$

1時間の授業の板書をノート見開き1ページでまとめさせる。

ノートの余白スペースに、家庭学習で取り組んだ予習・復習の内容を記録させる。

**Point**  
授業と家庭学習の意図的な関連付けは、学習の連続性・継続性を生み、児童生徒の学習習慣の定着につながります。

web フラッシュ α

保護者の理解を得るため、年度始めの学年懇談で家庭学習について提案したり、オリジナル下敷きを作成して普段から意識できるようにしたりすることで継続的に取り組むための工夫が見られました。また、授業で使うノートの一部に予習・復習スペースを設けたり、課題学習ノートを用意して復習と自主学習を一体で取り組めるようにしたりするなど、ノートづくりの工夫も見られます。授業で学習したことが家庭学習につながり、また授業で生かせるような仕組みづくりが大切です。

なお、集中して取り組めるよう保護者へ協力を働き掛けるとともに、家庭学習の約束事などを子どもたちと話し合いながら、これから先も使える学習の方法が身に付くように、発達の段階を踏まえた指導をしましょう。



【参考】  
学習習慣の形成に向け、総合教育センターの専門研究も参考にしてみましょう。  
○授業改善・学力向上研究グループ  
「児童生徒の学力向上を目指す授業改善」

5 算数・数学科経営の質を高める

【テーマ】学力向上に向けた数学科部会の取組（中学校）

【取組の概要】

年度始めの数学科部会で、生徒の実態を踏まえた学力向上に向けた指導の重点化を図り、校内研究と連動させて授業改善を進めた。

学校全体としての  
数学の授業改善・学力向上

**Point**  
教科経営は「学校としての」という立場が大切です。生徒の実態など学校の実情を理解し合うところから始めましょう。

- 校内研究と連動させた授業研究の充実
- ・一緒に指導案の事前検討
  - ・時間を決めて必ず参観
  - ・教科部会でも事後検討会
  - ・1学年複数教員が担当を生かし先行授業の実施と事後検討
- 教科部会の定例化と風通しの良い運営
- ・計画的な設定、定刻開始
  - ・異なる経験年数が集まるよさ
  - ・若年層の成長と新しい視点の獲得

教科部会の充実



- 全員で取り組む苦手領域
- ・3学年を見通した教材研究
  - ・特に、関数、図形領域に重点化
- 学習規律・学習習慣の共通化
- ・授業の流れ、ノート指導、家庭学習とのサイクル形成
  - ＜数学科として全学年統一＞

**Point**  
学力・学習状況調査の結果などを教科部会で読み合わせすることで、今後の指導の手立てについて方向性が見えてきます。

**Point**  
学校規模により校内で部会ができない場合は、**市町村単位や隣接校との情報交換**を大事にしましょう。また、**小中連携**を進め、お互いに授業を見合うことで、**算数と数学の間にギャップ**を生まないようにすることも大切です。

- ＜本校の生徒の実態＞
- ・明るく奉仕的活動にも積極的
  - ・関数や図形の領域が弱い
  - ・規範意識や自己有用感がやや低い
  - ・家庭学習の時間が短い生徒も多い

web フラッシュ

「我が校ではこのように指導する」という、**学校としての方針を明確にすることが教科経営の基盤**です。まず、**学年部会や教科部会を充実**させ、学校の実情を踏まえた方針と重点、そして指導の系統性などを確認しましょう。その上で、学習ルールの徹底や教科コーナーの充実、きめ細かなノート指導など、全ての教室で学力向上に向けた具体的な取組を着実に進めることにより、学習内容はもちろん、学習方法が子どもに定着していきます。

改めて、授業づくりの基盤となる「**学力向上に向けた5つの提言**」を確認するとともに、**学力向上対策の自校化・実践化**を進めましょう。また、「算数・数学」にとどまることなく、小学校では算数以外の教科で、中学校では自分の教科でどのような工夫ができそうか、この「算数・数学ステップ・アップ5」事例集も参考にしながら創造的に授業改善を進めましょう。

＜みやぎの先生「授業の技」配信事業＞

宮城県内の先生方の授業動画を共有するWebサイトができました。

- 明日の授業づくりの参考に
- 校内研修の素材として
- 授業の技の継承の場として

詳しくは、事業要項を御覧ください。

【お問い合わせ先】

宮城県教育庁義務教育課  
☎022-211-3643



《平成28年度宮城県検証改善委員》

吉村 敏之	(宮城教育大学教職大学院 教授)	「座長」
平 真木夫	(宮城教育大学教職大学院 教授)	
高橋 琢哉	(石巻市立大須中学校 校長)	
佐藤美紀子	(登米市立豊里小学校 教頭)	
高橋 文博	(塩竈市立第一中学校 教諭)	
千葉 純也	(大河原教育事務所 主幹)	
和田 祐子	(北部教育事務所 主幹)	
高須 由美	(南三陸教育事務所 主幹)	
新井 雅行	(義務教育課 課長補佐)	
菊池 晃子	(義務教育課 課長補佐)	
岩間 孝一	(総合教育センター 副所長)	
川田 尚	(総合教育センター 副参事)	
及川 理恵	(総合教育センター 次長)	
小野 久行	(総合教育センター 次長)	
本間 睦美	(総合教育センター 主幹)	
東灘 邦祥	(総合教育センター 主幹)	
阿部 朋樹	(総合教育センター 主幹)	